**令和4年度3月**

**一般社団法人大阪臨床整形外科医会理事会　資料本体**

**日時：　令和5年3月4日（土）１５：００～１８：００**

**場所：　ハービスPLAZA　5階（8,9,10号）会議室**

**大阪市北区梅田2-5-25　　TEL06-6343-7350**

**令和4年12月OCOA理事会議事録の承認　　 　　　　　　中野理事**

資料1

**[協議事項]**

**１、研修会実施予定　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　堀口副会長**

**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**

**大阪臨床整形外科医会　特別研修会（令和5年3月11日　ハイブリッド開催　現地会場：田辺三菱製薬 大阪本社 3階会議室　100名）共催　田辺三菱製薬　16:00～**

講演Ⅰ

演題名：整形外科リウマチ医が知っておきたい注射治療～トリガーブロックからREBORN The TNFまで～　座長：白木　隆士　先生

講師： 社会医療法人愛仁会井上病院 副院長　整形外科・リウマチ科　佐藤　宗彦　（さとう　もとひこ）先生

日整会　N6（リウマチ性疾患・感染症）、7（脊椎・脊髄疾患）、R（リウマチ医）

日医　60（腰痛）

講演Ⅱ

演題名：こんなに変わった骨・軟部腫瘍の診療　座長：貴島浩二　先生

演者： 福井大学学術研究院医学系部門医学領域器官制御医学講座整形外科学分野　教授

松峯　昭彦　（まつみね　あきひこ）先生

日整会　N1（整形外科基礎科学）、5（骨・軟部腫瘍）

日医　84（最新のトピックス・その他）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）

日本リウマチ財団（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）

**大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年3月25日　WEB開催　配信場所：しんとう整形外科・リウマチクリニック）OCOA単独開始　16:00～**

講演Ⅰ

演題名：「ハイブリッド手術室を用いた低侵襲かつ安全・確実な脊椎手術について」　座長：清水　広太　先生

講師：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　整形外科　医長

池上　大督（いけがみ　だいすけ）先生

日整会　N7（脊椎・脊髄疾患）、SS（脊椎脊髄病医）

日医　60（腰痛）

講演Ⅱ

演題名：「股関節疾患の画像所見」　座長：片岡　英一郎　先生

講師：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　整形外科医長

岡本恭典（おかもとやすのり）

日整会　N1（整形外科基礎科学）、11（骨盤・股関節疾患）、R（リウマチ医）

日医　61（関節痛）

講演Ⅲ

演題名：小児期に起こる整形外科的問題　-成長期スポーツ外傷・障害について-　座長：堀口　泰輔　先生

講師：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　副院長　島田　幸造（しまだ　こうぞう）先生

日整会　N2（外傷性疾患（スポーツ障害を含む））、9（肩甲帯・肩・肘関節疾患）、S（スポーツ医）

日医　72（成長・発達の障害）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　各々1単位）

日本手外科学会（講演Ⅲ　Ⅰ単位）

**第358回大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年4月15日　対面開催　現地会場：ANAクラウンプラザホテル大阪　108名）共催　大正製薬　16:00～　総合司会　大窪　博　先生**

**受付　吉村　弘治　先生**

講演Ⅰ

演題名：関節リウマチ診療における画像評価の有用性 － MRI, HR-pQCT, US を用いて －

座長：岸本　英樹　先生

講師： 大阪公立大学大学院医学研究科　整形外科学　病院講師　真本 建司　（まもと　けんじ）先生

日整会　N6（リウマチ性疾患・感染症）、R（リウマチ医）

日医　61（関節痛）

講演Ⅱ

演題名：変形性関節症の病態と治療の新たな動向　座長：小林　正之　先生

演者： 近畿大学医学部　整形外科学教室　主任教授　赤木 將男（あかぎ　まさお）先生

日整会　N12（膝・足関節・足疾患）、R（リウマチ医）

日医　73（慢性疾患・複合疾患の管理）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ　各々1単位）

**第359回大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年5月20日　対面開催　現地会場：エーザイ（株）大阪オフィス　梅田スカイビルタワーイースト33F　　名）共催　エーザイ　16:00～**

講演Ⅰ

演題名：「MTX皮下注射がRA治療に与えるインパクト」座長：山口　眞一　先生

講師： 大阪市立総合医療センター　整形外科医長　多田　昌弘（ただ　まさひろ）先生

日整会　1（整形外科基礎科学）、6（リウマチ性疾患、感染症）、R（リウマチ医）申請中

日医　61（関節痛）申請中

講演Ⅱ

演題名：「地域で、そしてチームで診る骨粗鬆症」　座長：榎本　誠　先生

演者： 関西医科大学香里病院　整形外科　部長　上田　祐輔（うえだ　ゆうすけ）先生

日整会　N4（代謝性骨疾患（骨粗鬆症を含む））、7（脊椎・脊髄疾患）申請中

日医　12（地域医療）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）申請中

日本リウマチ財団（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）

日本骨粗鬆症学会（講演Ⅱ）（1単位）

**日韓臨床整形外科研究会（令和5年6月3日）**

**第360回大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年6月17日　WEB開催　配信場所：しんとう整形外科・リウマチクリニック）OCOA単独開始　16:00～**

講演Ⅰ

演題名：小児関係

講師：大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学　病院講師　中川　敬介（なかがわ　けいすけ）先生

講演Ⅱ

演題名：「骨軟部腫瘍に出会ったらどうするか？」

講師：大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学　准教授　星　学（ほし　まなぶ）先生

講演Ⅲ

演題名：脊柱変形の診察と治療（側弯症～成人脊柱変形まで）

講師：大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学　准教授　寺井　秀富（てらい　ひでとみ）先生

**大阪臨床整形外科医会　特別研修会（令和5年7月1日　ハイブリッド開催　現地会場：石原ビル　　名）共催　ツムラ　16:00～**

講演Ⅰ

演題名：「」座長：

講師：米倉脊椎・関節病院　院長　橋口　宏（はしぐち　ひろし）先生

講演Ⅱ

演題名：「関節関係」

講師：大阪公立大学大学院医学研究科整形外科　講師　箕田　行秀（みのだ　ゆきひで）先生

**第361回大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年8月5日　対面開催　現地会場：ANAクラウンプラザホテル大阪）共催：東和薬品株式会社**

講演Ⅰ

演題名：「」

講師：（）先生

講演Ⅱ

演題名：「」

講師：滋賀医科大学　社会医学講座　法医学部門　教授　一杉　正仁　（ひとすじ　まさひと）先生

**第362回大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年8月19日　）共催　旭化成ファーマ**

講演Ⅰ

演題名：「骨粗鬆症性椎体骨折 診療 Update」

講師：大阪市立総合医療センター　整形外科・側弯症センター　星野　雅俊（ほしの　まさとし）先生

講演Ⅱ

演題名：「」

講師：奈良県立医科大学整形外科教室　講師　仲西　康顕（なかにし　やすあき）先生

**２、会員動態　　 　　白木副会長**

**前回理事会****令和4年12/3　(正会員486名)　以降　新入会**　2名

　横井　裕之　先生　令和5年1月21日　新入会　正会員　豊中市

　村田　紀和　先生　令和5年2月25日　新入会　正会員　大阪市　北区

　　　　**前回理事会　令和4年12/3　　以降　退会**　6**名　(内正会員5名特別会員0名)**

**米田　昌弘　先生　令和4年12月12日　　廃院　正会員　堺市**

**山口　康二　先生　令和4年12月15日　御逝去　正会員　大東市**

　　　　　**小川　寛之進　先生**　**令和4年12月14日　　廃院　正会員　堺市**

**倉田　陽一　先生　　令和5年2月8日　　廃院　正会員　中央区**

**森北　育弘　先生****令和5年2月17日大坂体育大学診療所　退職　正会員**

**前田　壮二郎　先生　令和5年2月22日病気、高齢のため　正会員　豊中市**

**令和5年2月25日現在**

　　　　**正会員　　　　　482名**

　　　　特別会員　　　　7名　(うち3名がJCOA名誉会員)

482+7の489名が最新名簿上の通しナンバーの最終番号

　　　　顧問(現役教授)　7名　(菅本一臣教授留任　令和4年3月31日定年退官)

　　　　特別顧問　　　　1名　　茂松　日医副会長(正会員)

　　　　名誉会員(元教授等)　9名　(菅本先生の正式決定は今年度総会の協議後に決定)

　　　　合計　　　　　　505名　(JCOA名誉会員が計5名)

　　　　**JCOA正会員は　OCOA正会員 482名　+　OCOA特別会員 7名**

**489名　　から　JCOA名誉会員5名　を除いた**

**484名**

**３、令和4年度OCOA会計報告の承認　 中谷副会長**

資料　会計資料

**４、令和5年度OCOA会計予算案の承認　　　　　　　　　 中谷副会長**

資料　会計資料

**５、広報委員会　　　　　 調子理事**

資料１０

調子、片岡、宮口、宮崎、山本（善）、吉村、宮田、中野、神藤、白木、荻野、小林、明石、中川、岸本

書物の電子媒体による閲覧が定着しつつあり、会報誌の簡素化と電子化について広報委員会で検討した。

１会報誌の簡素化

ホームページの刷新により情報をホームページから即時に得られることにより、会報誌のページ数を削減が可能である。

総会報告、理事会議事録等はホームページ上での閲覧とする。また、会報誌のコンテンツ毎に作成したひな形を使用した原稿依頼を行い、編集の簡易化とページ数の削減する方法も今後検討する。以上により現行ページ数の半分の80ページ程度に削減することを目指す。

２コストについて

編集をOCOAで行う場合、作業が煩雑で手間と時間が必要となる。ホームページ運用を依頼しているローカルサポートに編集を依頼した場合は写真構成等をある程度OCOA側が行うことで費用は30万円程度となる。

従来通り株式会社ひらたに依頼の場合は、別紙見積書のごとくである。

新しく見積もりを依頼した川西軽印刷株式会社では、現行使用の場合（80ページ）は単価1360円で前年度の数量を注文した場合870,400円となる。しかし、本文用紙を変更するとことにより単価を1000円まで圧縮することができ、640,000円（税込み704,000円）となる。また、（会報誌100冊）＋編集+PDF化では280,000円程度となる。

３今後の会報誌発行について

今年度は従来通り「株式会社ひらた」に編集、冊子印刷、PDF化データ作成を依頼。

来年度よりページ数を削減して「川西軽印刷株式会社」に依頼する。

会報誌の簡素化（ページ削減）と依頼会社の変更により経費削減は可能と思われる。

会報誌発行をPDF単独にするか否かの議論は、電子化するにあたり誌面での記事、情報発信をホームページ上のコンテンツに集約して会報誌発行を終了とする意見もあり、もう少し議論が必要である。

**６、　大阪府医師会医学会総会（令和6年1月25日開催予定）の講師、司会（座長）推薦依頼の件　 藤本会長**

**７、監事増員の件　 藤本会長**

**８、その他　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 藤本会長**

**[報告事項]**

1. **第 19 回 ロコモコーディネーター「オンライン」**

**資格取得研修会開催案内 長谷川理事**

令和5年2月吉日

第 19 回 ロコモコーディネーター「オンライン」資格取得研修会開催案内

認定非営利活動法人全国ストップ・ザ・ロコモ協議会（ＳＬＯＣ）

記

【日時】令和 ５年 ３月１９日（日）　９：００～１６：３０

【主催】認定非営利活動法人全国ストップ・ザ・ロコモ協議会（SLOC）

【開催形式】

* 今回は関西圏を中心に全国の施設有資格者を対象とした研修会を「オンライン」開催
* ６コマのオンライン講義受講後にオンライン修了試験を実施
* PCのみ参加可能（スマホ・タブレットでの参加は不可）。
* 高速通信の有線LAN接続でのご参加をお願い致します。
なお事前に参加者のWEB試験予行練習期間（１週間程度）を設けます。
＊詳細は後日SLOCホームページ「ロコモコーディネーター専用ページ」上でもお知らせします。

【応募資格】

* 医療系資格： 保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、
日本運動器科学会が実施する運動器リハビリテーションセラピスト研修認定を受けた者
* 介護系資格：　主任ケアマネージャー、5年以上の実務経験を有する介護福祉士

（注）医療機関、介護施設又は地域包括支援センター等に所属していることを条件とする。

【申込方法】

事前登録オンラインフォーム
<https://reg-cloud.com/sloc19/Entry/RegTop.aspx>
１. 申し込み時の返信メールに「ログインID番号」が表示されますのでお控ください。
２. 受付完了後、開催2週間前を目処に研修会参加方法等を参加申込み時にご登録頂いたメールアドレス宛にメールにてご連絡させていただきます。なお１施設受講者数の上限は設けておりません。
（**申込期間）１月１０日（火）１０：００ ～ ３月１３日（月）１７：００**（受講費用）５，０００円　（テキスト代・郵送代を含みます） ＊申込時にクレジット決済にて申し受けます。

【運営事務局】　ロコモコーディネーター研修会事務局　（資格証明などの送付先）

■資料：ロコモコーディネーター制度について
<https://sloc.or.jp/?page_id=175>
〒104-0041　東京都中央区新富１−８−６　SSビル３階
一般社団法人 会議支援センター
「ロコモコーディネーター研修会申込係」＊研修会に関するお問合せ等は、運営事務局にファックス（03-6222-9875）またはE-mail（kan-no@a-csc.org）にてお願いいたします。

以上

**２、日本整形外科学会の近況　　　　 長谷川理事**

１）会員数　　　２６２８１名　（２０２２年３月）

　JCOA　　５６０１名　２１％

　女性　　１７３４名　　6.7％（２０代　14％）

２）専門医　　　２０４４３名　７８％　　　　CBT試験を実施

　　　　　　＊学会認定専門医は機構認定医に移行

３）役員　　理事長　中島康晴（九州大学教授）

　　　　副理事長４名（大学２名　　勤務医１名　JCOA１名）　執行部の20％

理事　２３名（大学１７名　勤務医３名　JCOA３名）　１３％

４）代議員　　２７８名　　JCOA４９名　１８％

５）委員会

　　　各種委員会３６委員会　　JCOA委員３８名

６）認定医　　　取得・継続のためのオンライン研修会を開催

　　　リウマチ医　　　　５１５６名　　１９．６％

　　　運動器リハ医　　　６５２９名　　２４．８％

　　　脊椎脊髄病医　　　４５３９名　　１７．２％

　　　スポーツ医　　　　４８２８名　　１８．３％

７）サブスペシャリティー

　　△リウマチ専門医→膠原病・リウマチ内科専門医

　　〇脊椎脊髄外科専門医（脊椎脊髄病学会）

　×手外科専門医（手外科学会）　　再申請中

８）新整形外科専攻医　６６２名（2022年）　　８００名が上限？

＊シーリングがかかる都道府県

　　　　東京都、石川県、京都府、大阪府、和歌山県

　　　　福岡県、長崎県、熊本県

９）日整会雑誌

日本整形外科学会雑誌は95巻4号から電子ジャーナルリーダーシステム(MED PORTAL)にて配信

１０）症例レジストリーJOANR

　　　　解析症例数　８８５１８２例（2020年）

１１）日整会１００年に向けて

　　　　日整会１００年プロジェクト

　　　　　　学会ビジョンを決定

　　　　　　アクションプランを作成中

日本専門医機構　共通講習について

　企業共催による共通講習が認められなくなり、講習を申し込む際にシステム的には、希望分野番号入力に際して、「講習主催」で「企業共催あり」を選択した際に、14-1.14-2.14-3.14-4を選択できないようにしています。

　「共通講習申請の手引き」によりますと、日本専門医機構の考え方としては、共通講習の開催団体は、共通講習の適正な質を管理・担保するため、学会レベルの団体が開催していることを前提に統制を図るとのことのようです。（各基本領域学会、及び認定されたサブスペ学会が主催・共催しているものに開催団体が絞り込まれます。）したがって、JCOA学術集会を含めて日整会3学術集会以外では

共通講習を主催できないと解釈されます。その対策として日整会、日本専門医機構でe-learningの整備が進められているところですので、もうしばらく静観する必要があると思います。

　2022年４月から共通講習のカテゴリーが変更になり、１４－１医療安全

１４－２感染対策　１４－３医療倫理が必須講習A（１）医療安全（２）感染対策（３）医療倫理（臨床臨沂、研究倫理、生命倫理を含むに変更されています（更新申請５年で各１単位以上）。

１２－４その他の共通講習が必須講習B（４）医療制度と法律（５）地域医療（６）医療福祉制度（７）医療経済、　任意講習C（８）臨床研究・臨床試験（９）災害医療、必須講習Bの追加（０）両立支援に細分化され、共通講習の数が増やされています。これは「専攻医のへき地勤務の義務化」を引き下げる代わりとして、共通講習を増やすというバーターと考えられます。必修講習Bは日整会HPの会員マイページで専門医共通講習bその他（0～7単位）と掲示されています。

　現在のところJCOA会員は必修講習Bを受講する義務はありません。専門医機構からのアナウンスによると、資格取得時学会専門医で2015年以降に機構専門医へ移行した専門医は受講義務がないとされています。その理由は、これまでの経験から「多様な地域での勤務経験」があるとみなすことのようです。

直接機構専門医として資格を取得した専門医は受講義務がありますが、専門医資格取得後5年以内に各1単位とるのが理想的（5年以内に受講できなくてもペナルティはないようです。）とされています。また、研修期間も含めて「多様な地域での勤務経験」で受講が免除される、「多様な地域での勤務経験」の場所や期間といった具体的な内容は各領域で決めることになっています。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責　原田　昭



**３、日本臨床分科医会代表者会議　　　　 長谷川理事**

資料１１

**４、次期国民健康20230202ロコモ目標値　 長谷川理事**

資料１２

**５、第8回日韓臨床整形外科合同研修会について　　　　　　長谷川理事**

The 8th Japan Korea clinical orthopaedics joint meeting

共催：大韓整形外科医師会、一般社団法人日本臨床整形外科学会、久光製薬

日時：令和5年6月3日（土）17:00〜19:00(製品説明会：16:45〜)

場所：ザ・リッツカールトン大阪　2F「ザ・ガーデンルーム」

次第

総合司会；長谷川利雄

16:45〜16:55(製品説明)

17:00〜開会挨拶　一般社団法人日本臨床整形外科学会理事長　新井貞男

　　　　　　　　 大韓整形外科医師会　会長　キム　ワノ

黙祷

17:10〜18:00　シンポジウム1【コロナ禍における医療経営(仮)】

座長：奥村栄次郎、「韓国側1名」

演題1：「コロナ禍の医業経営」

JCOA副理事長　松原三郎

演題2：「韓国側」

18:10〜19:00　シンポジウム2【医療人材(仮)】

座長：五味渕聡志、「韓国側1名」

演題1：「整形外科医を増やすために」

田中まき整形外科　田中眞希

演題2：「韓国側」

19:30〜21:30　懇親会（2F「ザ･イーストルーム」）

21:30〜23:00二次会(カラオケ：2F「ザ･セントラルルーム」

備考：日韓同時通訳あり

懇親会次第

日時：令和5年6月3日（土）19:30〜21:30

場所：ザ・リッツカールトン大阪　2F「ザ・イーストルーム」

会費：日本側会員2万円、同伴者1万円、韓国側無料

食事：西洋料理(飲み放題)

総合司会　国際交流委員会　李笑求

挨拶　JCOA副理事長　奥村栄次郎

　　　OCOA会長　藤本啓治

アトラクション　約15分

西田真由子様　オペラ

乾杯　「韓国側」（オペラで盛り上げていただく）

歓談

中締め：国際交流委員会　原田昭

懇親会2次会

日時：令和5年6月3日（土）21:30〜23:00

場所：ザ・リッツカールトン大阪　2F「ザ・セントラルルーム」

会費：5,000円(日本側のみ)

司会：飯尾純

**６、かかりつけ機能についての動き　　　 長谷川理事**

資料１３

[4.20230211閣議決定　医療維新 \_ m3.com (1).pdf](file:///C%3A%5CUsers%5Cwada%5CDownloads%5C4.20230211%E9%96%A3%E8%AD%B0%E6%B1%BA%E5%AE%9A%E3%80%80%E5%8C%BB%E7%99%82%E7%B6%AD%E6%96%B0%20_%20m3.com%20%281%29.pdf)

JCOAニュース189号原稿

かかりつけ医の系譜と今後の対応

副理事長

長谷川利雄

2023年2月10日に政府はかかりつけ医（以下、｢か｣医）機能の制度整備等を盛り込んだ法案を閣議決定した。｢か｣医機能は5項目から成り、その制度整備は医療法に位置づけて2025年4月1日の施行を目指す。日常的な診療を総合的・継続的に行う、時間外診療、病状急変時等に入院等必要な支援、在宅医療、介護サービス等と連携の5項目である。1983年に「医療費亡国論」を内含する旧厚生省吉村仁氏の「医療費をめぐる情勢と対応に関する私の考え方」に既に｢か｣医の記載があり、1987年に同省はイギリス式の家庭医構想を発表。対して、日医はゲートキーパー機能の役割を担わされ、医療費抑制のための患者登録・人頭払い、医療の国家管理の強化につながるとして反対した。1992年に日医は｢か｣医の機能として、誰もが国民に選ばれて｢か｣医になる、患者と医師の良好な信頼関係が前提、患者のフリーアクセス及び医師の自主性が基本、医師の自己研鑽により維持されるべき、プライマリー機能を高める必要性等を挙げている。2007年経済財政諮問会議の医療サービスに関する答申･閣議決定を受けて、厚労省は患者の初期診療を「総合医」に限定し、フリーアクセスの制限、ゲートキーパー体制、登録医制、人頭払い、そして医療費抑制への条件を整備した。2008年に日医は対抗策として、それまでの生涯教育制度をバージョンアップ｢か｣医の基となる定義を規定した。この間に学会の動きとしては日本プライマリ・ケア連合会が設立され、政府は新専門医制度上の位置づけ及び診療報酬削減を目的としたゲートキーパー医師の認定を企図した。これらを阻止するために日医は医師の機能を重視した緩やかな定義による認定制度の創設を目指した。すなわち医療提供下ではプライマリーケアとゲートキーパーであり、地域包括ケアシステムではコーディネーター又はメンバーである。今後の｢か｣医の政府と日医の同床異夢の議論を注視する必要がある。

（本文793字）

**７、令和4年度JCOAシンポジウム　　12/4・東京　 宮崎理事**

日時：令和4年12月4日（日）11：00～16：00

場所：品川プリンスホテル　メインタワー12階「シルバー」

テーマ：「接骨院（整骨院）における慢性疾患への施術」

参加者：JCOA関係者、国会議員、保険者、報道関係など計110名

講演1「接骨院・整骨院における柔道整復術の実態」

元宮崎県中小企業団体中央会専務理事　清水秀一先生

柔道施術に関心を持った理由はゴルフ後の友人が健康保険で100円でマッサージをしてもらっていると聞いたので不思議に思ったのがきっかけで、自身も慢性腰痛があり接骨院で健康保険使用実態を体験した。何箇所もの接骨院に行き、領収書の内容に疑問を持ち、医療通知の金額と比較して水増し請求がわかった。確認すると返金すると言った施術所もあった。以後、接骨院の問題点について公開されている資料を詳細に検討した結果、ほぼ全てが詐欺行為であると確信した。

講演2「療養費における長期頻回施術について」

健康保険組合連合会政策部長　三宅泰介先生

償還払いが原則であり、支給の決定権はあくまで保険者にあることを踏まえ、厚労省保険局主催の柔道整復療養費検討専門委員会における３つの論点について解説。①患者ごとに償還払いに変更できる仕組み　償還払いの対象となるべき「長期・頻回施術の患者」が対象から外れるなど、まだ問題が残っているが、あはきではすでに償還払いに変更が行われており、柔整でも同様の仕組みを導入するべく議論が進んでいる。②明細書の義務化　常勤職員３人以上の施術所に限られることや、月単位での発行も可などの制限があるが、一応義務化が決定された。③施術者に確実に支払いを行う仕組み（復委任問題）　オンライン請求とともに支払い基金が直接管理柔整師に振り込む仕組みが想定されているが、多くの問題があり時間を要すると思われる。

シンポ演題1「柔道整復師の業務範囲」　三輪雅彦

平成9年の厚労省の通知で、 療養費の支給対象となる負傷は、急性又は亜急性の外傷性 の骨折、脱臼、打撲及び捻挫、となり、亜急性の外傷という言葉が出現した。

その後、様々な紆余曲折を経て平成30年の厚労省の通知で、亜急性の文言が削除され、療養費の支給対象となる負傷は、外傷性が明らかな骨折、 脱臼、打撲及び捻挫、となり、更に、外傷性とは、関節等の可動域を超えた捻れや外力に よって身体の組織が損傷を受けた状態を示すものであり、いずれの負傷も、身体の組織の損傷の状態が慢性に至っていないものであること、となった。

しかし、厚労省の疑義解釈によると、今回の改正は「療養費の支給対象を見直すものではない」としており、柔整側はこれまでの亜急性の解釈をとり続ける懸念はあるので、引き続き注視していく必要がある。

シンポ演題2「不正広告事例　柔整広告についての問題点」　前中孝文

広告の 誘引性は 医業では 医業広告ガイドラインで禁止されている。 客引きは犯罪である。 同様に、柔道整復も 柔道整復師法で 厳密な広告の制限が なされている。然しながら 多くの 施術所で著しく不正な広告が氾濫している。 これら不正の原因は１， 柔道整復師の過当競争　２，ワークシフトの風潮　にあると考えられる。 柔道整復師数、施術所数は 平成10年から12年間でそれぞれ2.6倍、2.2倍と急激な増加を見ている。ワークシフトの風潮は自らの職域を拡張しようとする流れで これが職域を越えた誇大広告につながっている。これらの対策は 割れ窓理論の適用である。割れた窓を放置せず修理すれば再び窓が割られることなく 放置すれば 窓は壊されどんどんと増加する。小さな不正をこまめに注意し正して行く必要がある。重大な不正には 単なる指導ではなく厳密な行政指導・処罰が必要であろう。厳格な罰則を受けることによって不正が修正されていくことになる。「社会を整形する整形外科医になろう」というスローガンのもと 決してあきらめず不正と戦い、悪を見逃さない強い決意が我々整形外科医に求められている。

シンポ演題3「受領委任払いの影響～なぜ柔整にかかるのか～」　小野直司

受領委任払いの影響〜なぜ柔整にかかるのか〜 「受領委任払い」の基本から説明する。柔道整復の施術費は健康保険の給付は療養費として 支払われるが、療養費の支給には2通りあり、「償還払い」と「受領委任払い」である。 施術所で患者が自己負担分だけを支払い、施術を行った柔道整復師が、代わりに健康保険 負担分の請求を行う方法が「受領委任払い」であるが、柔整問題の根源はここにある。 歴史的には昭和11年からある仕組みであり、当時は外傷を扱う保険医が少なかったことから発足したが、現在の医療供給体制は大きく変わっている。 療養費の支給決定権は保険者にあり、平成20年には柔整療養費を不支給とした保険者もあったが、厚労省通知により覆された。柔整療養費の支給対象は「外傷」であるが、ここに「亜急性の外傷」の概念が持ち込まれて混乱の元となっていた。しかし、日整会を含む3学会から学問的に否定され、平成30年に「亜急性」の文言は消えた。 受領委任の療養費支給申請書には患者署名が必要であるが、現状では最初に白紙状態の 書類に署名させられている実態があり、厚労省もこれを知りながら放置している。 受領委任払いは、外傷患者の利便性に配慮して始まったが、柔整師はこのかかりやすさを 逆手に取り、多くの適応外疾患を「捻挫」の受傷名で施術してきた。この受領委任払いにより、国民は恩恵よりも健康被害を被り、健康保険財源の浪費にもつながっていると言える

シンポ演題4「接骨院（整骨院）における慢性疾患に係る医業類似行為の全国1週間アンケート調査」　川久保誠

令和4年10月11日から10月17日の１週間に日本臨床整形外科学会全会員を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査に回答した本学会会員は77人であった。初診直前に接骨院に通院していた患者総数は初診患者総数5351人の内263人で、初診患者に対する接骨院通院患者の割合は4.9％であった。接骨院の通院期間は1ヶ月以上通院していた患者が95人もいた。外傷性、非外傷性のどちらの疾患であったかの調査では、非外傷性疾患が187人で全体の89％も占めていた。整形外科初診時の診断名は非外傷性疾患では腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、頚椎椎間板ヘルニア、頚椎症、肩関節周囲炎、変形性膝関節症などの病名が多かった。非外傷性疾患に保険証を使ったと答えた患者は148人で全体の70％に及んでいた。非外傷性疾患では健康保険適応外であることを知っているかとの問いでは、知らなかったと答えた患者が127人、77％と大勢を占めていた。接骨院での施術内容はマッサージ、マッサージに物理療法の併用などで、多くの患者はリラクゼーションを目的に接骨院に通院していることが推察された。接骨院を利用していた理由はいつも利用している、応急的に利用したが多かったが、整形外科より利用しやすい、整形外科に通院しても良くならなかったという回答もあった。接骨院から整形外科を受診した理由は、良くならなかったためやレントゲンを撮ってもらうためが多かった。また症状が悪化したためと答えた患者も少なからず存在した。接骨院では慢性疾患に対して健康保険証を使用して施術を行っていることが改めて明らかになった。

シンポ演題5「医業類似行為に係る健康被害実態調査の結果」　宮崎浩

JCOA会員5771名に医業類似行為に係わる健康被害実態調査を実施した。調査項目は1.施術による事故、2.慢性疾患に対する施術例、3.不適切な施術症例、4.骨折等の見逃し。平成29年１月１日から令和3年12月31日までの5年間で129医療機関から1177例の報告があった。職種としては柔整師が1011例と最も多く、施術による骨折事故40例や症状の悪化238例が報告された。柔整師による慢性疾患に対する施術は1177例中860例（73.1％）と多数を占めた。特に脊椎疾患571例、変形性膝関節症72例、肩関節周囲炎70例などが多く報告された。肩関節脱臼、アキレス腱断裂にマッサージを継続するなどの不適切な施術例123例、骨折の見逃し103例、骨折以外の見逃しも15例あり、この中には悪性腫瘍などの重篤な疾患も含まれていた。正しい診断をしていない慢性疾患への施術は、見逃されてしまう疾病があり、大変危険である。今回の医業類似行為に係る健康被害報告数は氷山の一角に過ぎない。健康被害を防ぐためには、接骨院での施術範囲を一般の方に理解してもらう必要がある。

**８、**令和4年度第6回医療システム委員会　**2/1・Web　　宮崎理事**

資料14-16

日　時：令和5年2月1日（木）19：30～21：30

場　所：WEB会議

出席者：15名

【理事会審議付帯事項】

一般向け小冊子「接骨院ってどんなところ？」の追加配布を募ったところ1週間で10000部が無くなり、

2月1日現在で配布希望が43の医療施設からあり1592部が不足しており、更に1日に数件の問い合わせが続いている状況である。そのため10000部の追加増刷を経理委員会で審議頂いた後に理事会に上程することとした。

【協議・検討事項】

1. 令和4・5年度理事長諮問事項中間答申

　　　令和5年度における各事項の担当者を以下のように決め、担当者は情報収集や協議・検討事項への提案をすることとした。

（1）代替医療・統合医療の研究、現状の把握と対策　鬼川　温

　　（統合医療の現状把握）

（2）厚生労働省の療養費検討委員会委員との連携　松本光司

（療養費検討委員会での主な議論の内容を２月末までに作成）

（3）医業類似行為有害事象・事例の収集と検討　宮崎　浩

　　（本年度の健康被害実態調査の結果を２月末までに作成）

（4）柔整師問題解決のための方針の検討

　　（オンライン請求が始まるまでに白紙委任などの対策を検討する）

（5）あはき受領委任導入後の影響の検討　川久保誠

（あはきの受領委任払いを終了した保険組合に終了した理由や支払い方法を償還払いにしたのか、

代理受領にしたのかを確認することとした）

（6）柔道整復師の卒後研修制度の影響と問題点の整理　三輪雅彦

（柔整師卒後臨床研修施設の研修内容について確認する）

（7）スクールトレーナー制度についての検討　名越　充

　　（運動器の健康・日本協会の動向などを含めて確認する）

（8）委員会独自の活動

　　（JCOAシンポジウム、日整会への働きかけ等）

2. 令和5年度JCOA学術集会（千葉県）

日程：令和5年7月16日（日）～17日（月）

場所：幕張メッセ　国際会議場

テーマ「最近の整形外科周辺問題」
　 　　 座長　（北村拓也、村井　聰）
　　　シンポジウム演題

 　　　１． 医療システム委員会の活動報告（鬼川　温）

 　　　２． 整形外科医と柔道整復師の連携、是か非か（松本光司）
 ３． 他科への啓発（三輪雅彦）
 ４． 交通事故の不正請求（吉田政史）
 ５． 不正広告（ネットやチラシ広告も含めて）（前中孝文）

 　　　６． 健康被害実態調査の結果（宮崎　浩）

　　　　以上の演題で既に学術委員長に連絡済み。

　　　　主催者から各演者に登壇諾否の確認と抄録作成依頼が送られてくる予定。

　抄録は2月21日までに作成、MLかNextcloud上で委員会で確認後、2月28日までに投稿する。

3.　令和5年度JCOAシンポジウム

日程：令和5年11月19日（日）11：00～16：00

場所：品川プリンスホテル

テーマは審査員のために有意義なもので検討していく。

情報交換会は開催の方向。

4.　委員会10年分のまとめ　4月末までに作成

5．次回医療システム委員会の日程

令和5年度第1回医療システム委員会は令和5年4月9日（日）か5月21日（日）11：00～15：00

にJCOA事務局で開催予定。MLで決定する。

【報告事項】

1. 令和4年度第5回医療システム委員会議事録（12/4）
2. 令和4年度第5回JCOA理事会議事録（12/11）

柔整問題解説の一般向け小冊子の増刷について

各種アンケート結果のJCOA学術集会発表及び論文投稿について、

引用される論文にするため日本臨床整形外科学会雑誌にも投稿する

令和５年度事業計画の提出について　提出期限　令和5年１月16日まで

各種委員会年次報告書及び理事長諮問事項に対する中間報告提出について　提出期限　令和5年3月31日まで

3． 令和4年度第２回JOA広報・渉外委員会議事録（12/3）

4．令和4年度JCOAシンポジウム「接骨院（整骨院）における慢性疾患への施術」報告

基調講演１「接骨院・整骨院における柔道整復術の実態」清水秀一氏

基調講演2「療養費における長期頻回施術について」三宅泰介氏

「柔道整復師の業務範囲について」三輪雅彦

「不正広告事例　柔整広告についての問題点」前中孝文

「受領委任払いの影響～なぜ柔整にかかるのか～」小野直司

「接骨院（整骨院）における慢性疾患に係る医業類似行為の全国1週間アンケート調査」川久保誠

「医業類似行為に係わる健康被害実態調査の結果」宮崎　浩

各抄録の確認あり。

鬼川　温委員からアンケート調査結果の報告あり。清水氏の講演をはじめとして好評であり、様々な意見をいただいた。今後のシンポジウムに活かしていく。

メディカルトリビューン記事については「不正広告事例」、「健康被害実態調査の結果」がWEB版、新聞ともに掲載される。（別紙参照）

週刊女性の取材も終了しており原稿作成中。（別紙参照）

5.　 一般向け小冊子「接骨院ってどんなところ？」の追加頒布を実施した

**９、第11回大阪マラソン　　　　　　　　　２/26・大阪　荻野理事**

**１０、令和4年度第5回一般社団法人日本臨床整形外科学会理事会**

**及び整形外科医政協議会執行委員会　　　　12/11・東京　　貴島理事**

日　時：令和4年12月11日（日）11：00～16：00

場　所：ロイヤルパークホテル2F「春海」

出席者：（24名）

特別出席者：（5名）

欠席者：（1名）

議　題：

【審議事項】

１．令和4年度入会承認及び退会状況について（長谷川）

前回承認後の新入会員が承認された。（8名）

令和4年度の現時点での入会者数は127名（内、女性会員7名）、

退会者数は104名（逝去会員含む）

令和4年12月1日現在　正会員数　　5,590名

名誉会員数　 114名

　　　　　　　　　　　　　計　　　5,704名（内、女性会員103名）

　　　　　　　　　　　　賛助会員　66名

２．令和5年度学術賞・学会功労賞・学術奨励賞の選考について（大山）

　　1）学術賞は「推薦なし」

 2）学会功労賞は学術委員会より、鹿児島の橋口兼久会員が推薦され承認された

　　3）学術奨励賞は学術委員会より、徳島の遠藤健次会員と大阪の堀口泰輔会員が推薦され承認された。

３．診療報酬改定関連資料のオンラインストレージの整備について（寺門）

　　診療報酬改定に向けての医療技術評価提案書の作成に際し、過去の提案書の確認のため、過去の提案書を保存するためのオンラインストレージの整備する事が提案され、承認された。（費用は掛からない）

４．医療関連文献検索サイトの導入について（寺門）

診療報酬改定に向けての医療技術評価提案書の作成に際し、提案書の提出時にはエビデンス文献の添付が求められるため、JCOAとして医療関連文献検索サイトを導入することが提案され、承認された。

医中誌webで2年間契約し、その後の契約については再度審議することとなった。

５．柔整問題解説の一般向け小冊子の増刷について（北村）

　　経理委員会で柔整問題解説の一般向け小冊子の増刷に際し、343,500円を令和4年度予算から支出が了承された。

　　理事会でも本件に関し、承認された。

６．各種アンケート結果のJCOA学術集会発表及び論文投稿について（新井）

　　各種アンケート結果を義務として会報で報告はしているが、今後、JCOA学術集会発表及び論文投稿することが提案され、承認された。

７．ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液の安定供給に関する要望書について（新井）

　　「ノイロトロピン錠・ノイロトロピン注射液」の安定供給を継続するため、基礎的医薬品（薬価が安定する）に指定して頂けるように厚生労働省に要望書を提出することが承認された。

８．コロナ禍の運動器リハビリテーション運営に対する影響アンケート（橋口）

運動器リハ・介護保険検討委員会より、第36回JCOA学会で行われるシンポジウムで発表するコロナ禍での運動器リハビリテーション運営に対する影響を調査するためにアンケートを実施することが承認された。

内容の変更については委員会に一任することとなった。

９．地区会議への会議費助成について（奥村）

　　地区（ブロック）会議への会議費助成金（会議費）として年間10万円の補助があることが確認された。速やかな会議報告書のJCOA事務局の提出が必要である。

10．令和4年度JCOAシンポジウムデータの提供について（北村）

　　発表者に対し健康保険組合連合会とメディカルトリビューン社からデーター提供の依頼があり、一部内容変更の上、提供することが承認された。また、記事になる前に委員会でチェックすることが確認された。

【各種報告事項】

１．令和4・5年度各種会議等実施状況（奥村）

２．日本医師会社会保険診療報酬検討委員会委員の推薦について（新井）

　　五味淵　聡志　副理事長を推薦した事が報告された。

３．令和5年度名誉会員の推薦について（新井）

　　名誉会員の条件を満たされている24名の会員の先生方が報告された。

４．日本が誇る医療用外用貼付剤の推進に関する議員連盟について（新井）

　　令和4年11月22日に、日本が誇る医療用外用貼付剤の推進に関する議員連盟の設立総会が行われ、その内容について報告された。

５．令和5年度理事会等の日程案について（新井）

６．令和5年度事業計画の提出について（新井）

７．各種委員会年次報告書及び理事長諮問事項に対する中間報告提出について（新井）

８．第71回日本理学療法学会の後援名義使用について（新井）

　　当学会の後援名義の使用を許可することが報告された。

９．供給停止品目の事前報告書について（スベニールディスポ関節注25mg）

（五味渕）

　　製造設備の老朽化、専門性の高い要員維持が困難、製造を承継可能な企業がない等の理由より供給停止予定であることが報告された。供給停止案内開始時期は2023年1～3月、供給停止時期は2024年3月を予定している。

10．令和4年度日整会名誉会員、功労賞への推薦について（五味渕）

　　名誉会員：新井　貞男（千葉県）

　　功 労 賞：柴田　輝明（埼玉県）

　　　　　　　木島　秀人（新潟県）

　　　　　　　成島勝之助（岩手県）

11．第8回日韓整形外科合同研究会の開催予定について（二階堂）

　　2023年6月3日に、大阪（リッツカールトン大阪）で開催する事が報告された。

12．中華民国骨科医学会の新理事長就任について（二階堂）

　　新理事長にチャン・イーシェン先生が選出された。第36回JCOA学術集会

（千葉）で交流再開することが報告された。

13．二次性骨折予防継続管理料に関する実態調査について（金淵）

　　診療所用、病院用のアンケートを作成し、その内容について報告があった。

14．医業経営実態（レセプト）調査及び自己負担増（総括表）調査（2022年10月～12月）について（金淵）

　　調査数が減少しているため、協力の依頼があった。

15．3年以上会費未納者の会員継続について（橘）

　　3年以上会費未納の2名の会員より滞納金の納入が確認され、会員継続が報告された。

16．第3回JCOADiTブロック実務委員会報告（近畿・中国四国）（令和4年10月27日）（河村）

17．令和4年度シンポジウム報告（令和4年12月4日）（北村）

18．令和4年度JCOA有床診療所部会全体会議報告（令和4年12月4日）（寺門）

【各委員会等報告事項】

１．有床診WG（令和4年10月26日、12月3日）（寺門）

２．スポーツ委員会（令和4年10月30日）（河村）

３．自賠・労災委員会（令和4年11月1日）（村井）

４．医療システム委員会（令和4年11月10日、12月4日）（北村）

５．学校保健委員会（令和4年11月11日）（貴島）

６．「Q&A交通事故診療ハンドブック」編集WG（令和4年11月14日）（村井）（

７．運動器リハビリテーション・介護保険検討委員会（令和4年11月20日）

（橋口）

８．災害医療チーム検討委員会（令和4年11月24日）（河村）

９．総務（広報・福祉・組織拡大）委員会（令和4年11月26日）（橘）

10．経理委員会（令和4年12月6日）（木内）

【日整会報告事項】

１．ロコモの目標指標について（原田）

「生活機能の維持向上」の中で、ロコモティブシンドロームの減少（足腰に痛みのある高齢者の割合の減少）という形で入っていることが報告された。

２．日整会100年プロジェクトについて（原田）

　2025年日整会が創立100周年に伴い、日整会100年プロジェクトとして学会ビジョンが作成されたことが報告された。

**／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／**

整形外科医政協議会執行委員会

出席者：（24名）

【整形外科医政協議会報告事項】

１．各県別加入状況（新井）

２．執行部の動き（新井）

３．寄付金について（新井）

**１１、令和4年度第6回一般社団法人日本臨床整形外科学会理事会**

**及び整形外科医政協議会執行委員会　　2/26・東京　貴島理事**

日　時：令和5年2月26日（日）11：00～16：00

場　所：ロイヤルパークホテル2F「春海」

出席者：（24名）

特別出席者：（5名）

欠席者：（1名）

議　題：

【審議事項】

１．令和4年度入会承認及び退会状況について（長谷川）

前回承認後の新入会員が承認された。（5名）

令和4年度の現時点での入会者数は132名（内、女性会員7名）、

退会者数は141名（逝去会員38名含む）

令和5年2月15日現在　正会員数　　5,560名

名誉会員数　 112名

　　　　　　　　　　　　　計　　　5,672名（内、女性会員103名）

　　　　　　　　　　　　賛助会員　66名

２．令和5年度定時社員総会の議案について（新井）

　　令和5年度定時社員総会の議案について説明があり、承認された。

３．令和5年度名誉会員候補者の推薦について（新井）

　　名誉会員の条件を満たしている10名の会員の推薦が承認された。

４．運動器検診後の受診勧告児童・生徒等の実態調査（8年目）の実施について

　（新井）

　　運動器検診の成果の検討のためにもデーターが必要である。

運動器検診後の受診勧告児童・生徒等の実態調査（8年目）の実施が承認された。

５．医業経営委員会の開催回数の変更について（寺門）

　　医業経営委員会は、診療報酬改定の提案する前年ごとに隔年で開催されていたが、審査基準が厳しくなっていること、提案書に添付する新しいエビデンスの作成、統計などをとる必要があること、提案書の採否の結果や分析、次回以降の対策、構成メンバーが替わっても仕事の流れが継承できるようにするために、毎年の開催が提案され、承認された。

６．柔整問題解説の一般向け小冊子の再増刷について（北村）

　　R4年度第5回理事会で承認され、10,000部の増刷を行ったが、1週間足らずで全てなくなり、3,000部弱の不足を生じている状態（R5年2/25現在）になっている。追加増刷のための予算措置が審議され、承認された。

（6,000部　255,600円）

７．運動器疾患X線撮影安全管理指針（第2版）の製作について（大山）

　　運動器疾患X線撮影安全管理指針（第2版）の製作が承認された。

　　中和印刷に、7,000部（847,000円）を発注することとなった。

８．倫理審査委員会外部委員の補充について（大山）

　　倫理審査委員会外部委員の坂本桂造先生の辞職に伴い、新たに昭和大学医学部整形外科学講座　主任教授の稲垣克記先生が推薦され、承認された。

９．名誉会員に関する規則の変更について（二階堂）

　　日整会の条文に従い、改正することが承認された。

10．事務局相談役の雇用更新について（新井）

　　事務局相談役の雇用更新が承認された。

11．職員へのインフレ手当の支給について（木内）

　　この度の物価上昇を背景に、JCOA職員の生活費を補助することを目的とするインフレ手当を支給することが、承認された。（基本給年額の3％）

【各種報告事項】

１．令和4・5年度各種会議等実施状況（奥村）

２．第48回JCOA研修会（宮崎）収支報告書について（木内）

　　第48回JCOA研修会（宮崎）収支報告があった。

３．文部科学省「令和4年度脊柱側弯症検診に関する調査研究」事業有識者委員会

委員の受諾について（新井）

　　新井貞男理事長に、学校検診における側弯症機器検診の在り方について検討する文部科学省「令和4年度脊柱側弯症検診に関する調査研究」事業有識者委員会に委員としての委嘱があり、委員就任承諾したことが報告された。

４．各種アンケート結果の論文投稿に関する留意事項ついて（新井）

　　JCOAの各種委員会が行った各種アンケート結果を、原則として、JCOA学術集会での発表と日臨整誌への投稿のお願いがあった。

５．日本が誇る医療用外用貼付剤の推進に関する議員連盟総会（第2回目）報告

（令和5年2月16日）（新井）

　国会議員、厚生労働省、外用製剤協議会、日本製薬団体連合会、JCOA、福祉社会総合研究所の出席で開催された。局所性経皮吸収型鎮痛剤が家庭内に大量に余っているという事実はないこと、2022年の処方枚数制限は、かえって患者の受診回数を増やし、薬剤費の削減効果以上に医療費を増大（12億円）させることが確認されたなどの提言があった。

６．二次性骨折予防継続管理料に関する実態調査報告（金淵）

　　二次性骨折予防継続管理料の実態調査をJCOAに所属する医療機関に対してアンケートを行った。診療所は管理料3の申請済みが49.9％で、昨年6月から12月の算定数が0件40.1％、1～5件12.7％と87.3％が算定なしという結果であった。また。病院での申請は管理料1が67.9％、管理料2が51.8％、管理料3が64.3％と施設基準が整わず申請していない医療機関が見られた。今後の周知と病診連携の強化が必要と思われた。

７．人身傷害保険先行払後の自賠責保険回収の扱いについての最高裁判断について

（久賀）

　　人身傷害保険先行払後の自賠責保険回収の扱いについての最高裁判断の情報提供があった。

８．第31回日本医学会総会博覧会におけるSLOC企画のステージ及び展示について

（二階堂）

　　4年に一度開かれる第31回日本医学会総会博覧会（今回は東京丸の内で行われる）に、SLOC企画のステージ及び展示（子どもロコモ、ロコモとフレイル）を行うことが報告された。

９．JCOA災害医療チームの災害時活動における災害に対する意識調査アンケート結果報告（河村）

　　JCOA会員572名から回答が得られ、8～9割の会員は何れかの支援を希望している（1～2割の会員は支援を希望していない）ことが分かった。

　　局地災害等では各都道府県の災害対応委員会や災害実務連絡担当は引き続き担当のCOA会員の被災状況把握に努め、構築された連絡網の維持に留意することとなった。

10．令和4年度第4回JCOADiTブロック実務委員会（九州）報告

（令和4年12月22日）（河村）

11．第5回JCOA災害医療チーム研修会報告（令和5年2月5日）（河村）

　　ハイブリッドで開催され、219名の参加があった。今回の研修会の内容を3月末までのオンデマンド配信を企画したことが報告された。

12．令和4年度病院部会全体会議及びJCOA研修会（病院部会主催）報告

（令和5年2月19日）（貴島）

13．インスリンポンプ・持続グルコース測定器について（新井）

　　レントゲン、磁気の影響を受ける可能性があることが報告された。詳細は現在確認中である。

14．メディカルトリビューン記事（令和4年JCOAシンポジウム）（令和5年1月6日・1月10日）について（北村）

令和4年JCOAシンポジウムの内容が、メディカルトリビューに掲載されたことが報告された。

15．接骨院（整骨院）における慢性疾患に係わる医業類似行為の全国1週間アンケート調査結果報告（北村）

　　初診患者に対する接骨院通院患者は4.9％

非外傷性疾患での接骨院通院患者は89％

非外傷性疾患で保険証を使った接骨院通院患者は70％

非外傷性疾患は健康保険適応外であることを知らなかった患者は77％

【各委員会等報告事項】

１．有床診WG（令和4年12月3日）（寺門）

２．医療システム委員会（令和4年12月4日、令和5年2月1日）（北村）

３．医療システム委員会、日整会広報・渉外委員会合同委員会（令和5年2月5日）（北村）

４．医療安全・倫理委員会（令和4年12月21日）（大山）

５．社会保険等検討委員会（令和4年12月25日）（金淵）

６．経理委員会（令和5年2月18日）（木内）

【日整会報告事項】

１．日整会の概要（原田）

公益法人日本整形外科学会の近況

１）会員数　　　２６２８１名　（２０２２年３月）

　JCOA　　５６０１名　２１％

　女性　　１７３４名　　6.7％（２０代　14％）

２）専門医　　　２０４４３名　７８％　　　　CBT試験を実施

　　　　　　＊学会認定専門医は機構認定医に移行

３）役員　　理事長　中島康晴（九州大学教授）

　　　　副理事長４名（大学２名　　勤務医１名　JCOA１名）　執行部の20％

理事　２３名（大学１７名　勤務医３名　JCOA３名）　１３％

４）代議員　　２７８名　　JCOA４９名　１８％

５）委員会

　　　各種委員会３６委員会　　JCOA委員３８名

６）認定医　　　取得・継続のためのオンライン研修会を開催

　　　リウマチ医　　　　５１５６名　　１９．６％

　　　運動器リハ医　　　６５２９名　　２４．８％

　　　脊椎脊髄病医　　　４５３９名　　１７．２％

　　　スポーツ医　　　　４８２８名　　１８．３％

７）サブスペシャリティー

　　△リウマチ専門医→膠原病・リウマチ内科専門医

　　〇脊椎脊髄外科専門医（脊椎脊髄病学会）

　×手外科専門医（手外科学会）　　再申請中

８）新整形外科専攻医　６６２名（2022年）　　８００名が上限？

＊シーリングがかかる都道府県

　　　　東京都、石川県、京都府、大阪府、和歌山県

　　　　福岡県、長崎県、熊本県

９）日整会雑誌

日本整形外科学会雑誌は95巻4号から電子ジャーナルリーダーシステム(MED PORTAL)にて配信

１０）症例レジストリーJOANR

　　　　解析症例数　８８５１８２例（2020年）

１１）日整会１００年に向けて

　　　　日整会１００年プロジェクト

　　　　　　学会ビジョンを決定

　　　　　　アクションプランを作成中

２．日本専門医機構共通講習について（原田）

日本専門医機構　共通講習について

　企業共催による共通講習が認められなくなり、講習を申し込む際にシステム的には、希望分野番号入力に際して、「講習主催」で「企業共催あり」を選択した際に、14-1.14-2.14-3.14-4を選択できないようにしています。

　「共通講習申請の手引き」によりますと、日本専門医機構の考え方としては、共通講習の開催団体は、共通講習の適正な質を管理・担保するため、学会レベルの団体が開催していることを前提に統制を図るとのことのようです。（各基本領域学会、及び認定されたサブスペ学会が主催・共催しているものに開催団体が絞り込まれます。）したがって、JCOA学術集会を含めて日整会3学術集会以外では共通講習を主催できないと解釈されます。その対策として日整会、日本専門医機構でe-learningの整備が進められているところですので、もうしばらく静観する必要があると思います。

　2022年４月から共通講習のカテゴリーが変更になり、１４－１医療安全

１４－２感染対策　１４－３医療倫理が必須講習A（１）医療安全（２）感染対策（３）医療倫理（臨床臨沂、研究倫理、生命倫理を含むに変更されています（更新申請５年で各１単位以上）。

１２－４その他の共通講習が必須講習B（４）医療制度と法律（５）地域医療（６）医療福祉制度（７）医療経済、　任意講習C（８）臨床研究・臨床試験（９）災害医療、必須講習Bの追加（０）両立支援に細分化され、共通講習の数が増やされています。これは「専攻医のへき地勤務の義務化」を引き下げる代わりとして、共通講習を増やすというバーターと考えられます。必修講習Bは日整会HPの会員マイページで専門医共通講習ｂその他（0～7単位）と掲示されています。

　現在のところJCOA会員は必修講習Bを受講する義務はありません。専門医機構からのアナウンスによると、資格取得時学会専門医で2015年以降に機構専門医へ移行した専門

医は受講義務がないとされています。その理由は、これまでの経験から「多様な地域での勤務経験」があるとみなすことのようです。

直接機構専門医として資格を取得した専門医は受講義務がありますが、専門医資格取得後5年以内に各1単位とるのが理想的（5年以内に受講できなくてもペナルティはないようです。）とされています。また、研修期間も含めて「多様な地域での勤務経験」で受講が免除される、「多様な地域での勤務経験」の場所や期間といった具体的な内容は各領域で決めることになっています。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責　原田　昭



**／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／**

整形外科医政協議会執行委員会

出席者：（24名）

【整形外科医政協議会報告事項】

１．各県別加入状況（新井）

　　整形外科医政協議会加入率は45％

２．執行部の動き（新井）

**１２、第64回大阪整形外科症例検討会世話人会　1/28・大阪　山口理事**

資料17，18

開催日：2023年1月28日（土）14：20～14：50

作成者：旭化成ファーマ株式会社

ご出席

日高典昭先生、乾健太郎先生、岸本成人先生、今村史明先生（WEB）、渋谷高明先生、

小坂理也先生、大野一幸先生、神藤佳孝先生、山口眞一先生

三木秀宣先生（WEB）、上田孝文先生、中島弘司先生、古瀬洋一先生（WEB）、田村次郎

旭化成ファーマ株式会社、

ご欠席：、藤尾圭史先生、鈴木隆先生、大島和也先生、劉　長勱先生

1. 今後の会の運営について

代表世話人　大野先生：共催して頂けるメーカーについて、第一三共さんから前向きなご意見をいただく。ただ会の名称（～症例検討会）が変わらないと社内規定に抵触するため、可能であれば名称の変更をお願いしたい。

また、内容についても特別講演よりも症例検討の時間の方が長いため、症例検討の時間を短くしないと難しいと言われている（6演題→4演題）。

現状について意見集約

・もともと病院勤務医と開業医の意見交換できる場として始めた会だったが、多くの先生方のご協力やメーカーの共催もあり長く続けることが出来ている。ただ時代も変化しているため、名称の変更に関しては問題ない。（上田先生）

・6演題から4演題となるが4演題も残してもらえるという印象、名称変更・内容変更について問題ない（岸本先生）

等、世話人の先生方からも前向きなご意見が複数あり、名称変更に関して一同承認。

以上より、名称は「大阪整形外科セミナー」に変更。

構成を症例発表6演題→4演題に変更。

後日第一三共さんと協議の上、共催について最終確認。

問題無ければ次回世話人会より参加していただく。

（次回運営に関しては旭化成ファーマが共催）

第65回（夏）旭化成ファーマ

第66回（冬）第一三共

1. 次回以降の当番世話人について

当番世話人表（別表１）に基づき

第65回当番世話人は大阪府済生会中津病院　乾　先生

第66回当番世話人は岸本整形外科　岸本　先生に決定。

それ以降に関しても当番世話人表（別表１）に基づき、当番世話人を決定する

1. 次回一般演題の座長について

6演題から4演題に変更となったため、一般演題座長は1名。

過去実施状況表（別表２）を参考に、堺市立総合医療センター　大野先生に決定。

1. 次回候補日について

・2023年7月29日（土）

・2023年8月 5日（土）

・2022年8月26日（土）

1. 次回の特別講演演者について

次回当番世話人の乾先生と旭化成ファーマ㈱にて検討する。

・次回開催形式について

これまでご参加いただいた先生方にアンケートで伺ってもいいのでは。（上田先生ご提案）

アンケートフォームに回答いただくような資料をお送りして集約。

その他

コロナの取り扱いが第5類に変更となることもあるが、情報交換会は出来ないのか。

社内の指針を確認し実施できるよう前向きに検討させていただく（旭化成ファーマ）

第63回開催分会計報告

収入：日整会単位取得費用　1000円×15人　15000円

支出：なし

次回繰越金：15000円

別表１. 第57回世話人会にて決定した当番世話人表



別表２．症例発表座長の当番表



**１３、大阪臨床整形外科医会療法士会　第62回　勉強会**

**2/19・大阪　白木副会長**

事業内容報告書

（公）大阪臨床整形外科医会　　御中

報告日：令和5年2月21日

下記の通り事業を行いましたので報告致します。

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和5年2月19日（日）10:00～12:30 |
| 事業名（テーマ） | 大阪臨床整形外科医会療法士会　第62回　勉強会『姿勢評価と身体を動かすヒントとコツ』 |
| 講師 | 井上 哲也　先生　(竹吉整形外科　理学療法士) |
| 会場 | こみ整形外科　リハビリテーション室 |
| 参加人数 | 会　員：　　　7名（内当日入会0名）非会員：　　　3名 | 参加費 | 会　員：　1,000円非会員：　3,000円 |
| 助成金使用額 | 　34,836円　　（開催費用　50,836円　　参加費収入　16,000円） |
| 内　容 | 立位姿勢の安静時評価から動作時評価、また体幹を中心に筋などの柔軟性評価を実技形式で行い、教科書的な評価だけでなく特に胸郭に着目した姿勢評価を行いました。評価に基づき、問題点を考え体幹筋などへの柔軟性向上を目指したアプローチしていく内容といたしました。　　　　　　　　　　　　　　　　（文責　井上哲也） |

大阪臨床整形外科医会療法士会

|  |
| --- |
| 　令和4年度　大阪臨床整形外科医会療法士会 |
| 勉強会・講習会・研修会　事業　　決算報告 |
|  |  | 令和4年度 |  |  |  |  |  |  |
|  | 　事業名 | 第62回勉強会　『姿勢評価と身体を動かすヒントとコツ』 | 　 | 　 |
|  |  | 開催日 | 2023/2/19 |  |  |  |  |
|  |  | 場所 | こみ整形外科 |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 収入の部 |
|  | 　 | 予算額（円） | 　 | 決算額（円） |
|  | 　 | 内訳 | 　 | 備考 |
|  | 1.参加費 | 　 | 　 | 1.参加費 | 　 | 　 |
|  | 会員参加費 | 10,000 | 10名（１人1000円） | 会員参加費 | 7,000 | 　名（7人1000円） |
|  | 　 | 非会員参加費 | 15,000 | 5名（１人3000円） | 　 | 非会員参加費 | 9,000 | 　名（3人3000円） |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 2.OCOA療法士担当委員会援助金 | 21,206 | 　 | 2.OCOA療法士担当委員会援助金 | 34,836 | 　 |
|  | 合計 | 46,206 | 　 | 合計 | 50,836 | 　 |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 支出の部 |
|  | 　 | 決算額（円） | 　 | 決算額（円） |
|  | 　 | 備考 | 　 | 備考 |
|  | 1.会場費 | 　 | 　 | 1.会場費 | 　 | 　 |
|  | 2．印刷費  | 　 | 　 | 2．印刷費  | 　 | 　 |
|  | 　 | 資料印刷費 | 3,000 | 　 | 　 | 資料印刷費 | 2,210 | 　 |
|  | 　 | 郵送・案内 | 5,000 | 　 | 　 | 郵送・案内 | 5,000 | 　 |
|  | 3.雑費 | 　 | 10,000 | 事前会議など | 3.雑費 | 　 | 10,000 | 事前会議など |
|  | 　 | 　 | 1,500 | 販売手数料 | 　 | 　 | 1,540 | 販売手数料（決算処理費用+振込手数料） |
|  | 3．人件費 | 　 | 　 | 3．人件費 | 　 | 　 |
|  | 講師謝礼金 | 15,000 | 　 | 講師謝礼金 | 15,000 | 　 |
|  | 　 | 源泉所得税 | 1,706 | 　 | 　 | 源泉所得税 | 1,706 | 　 |
|  | 　 | アシスタント | 5,000 | 　 | 　 | アシスタント | 5,000 | 1名 |
|  | 　 | スタッフ料 | 3,000 | 　 | 　 | スタッフ料 | 6,000 | 2名 |
|  | 　 | 交通費 | 2,000 | 　 | 　 | 交通費 | 4,380 | 　 |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 合計 | 46,206 | 　 | 合計 | 50,836 | 　 |
|  |  |  |  |  | 収入計 | 50,836 | 円 |  |
|  |  |  |  |  | 支出計 | 50,836 | 円 |  |

**１４、第17回ＯＣＯＡ運動器リハセラピスト資格継続研修会**

**山本（善）理事**

第17回ＯＣＯＡ運動器リハセラピスト資格継続研修会を
令和5年10月29日（日）、大阪府医師協同組合8階ホールにて開催予定です。
コロナが5類になれば、日本運動器科学会の資格継続要件の変動もみながら定員を従来通りの130人にするか検討します。

**１５、令和4年度第4回JCOADiTブロック実務委員会（九州）**

**12/22・WEB　神藤理事**

資料

日　時：令和4年12月22日（木）20：00～21：30

場　所：ウェブ会議

出席者：副理事長　松原三郎、五味渕聡志

福岡県　　大橋輝明

熊本県　　松原三郎（副理事長）

大分県　　佐藤倫一郎

宮崎県　　福嶋秀一郎

鹿児島県　米盛公治

奈良県　　墳本敏彦

災害医療チーム検討委員会

担当理事　河村英徳、久賀養一郎、村井　聰

委 員 長　神藤佳孝

副委員長　濱邊卓也

委　　員　八木知徳、新保　純、姫野信吉

１．開会挨拶

松原三郎副理事長から挨拶があった。

２．自己紹介

　　各出席者は、自己紹介を行った。

３．報告事項

（１）九州ブロックの災害に関して

　　　令和4年台風第14号の被害について、各県担当者から報告があった。

ア．宮崎県

　　　①　回答数：63医療機関

②　被害なし25件（時間外の短時間停電含む）

③　被害あり38件

④　被害内容（重複あり）

・　雨漏り10件

・　外構の破損（フェンス、看板、ミラーなど）9件

・　雨の吹込みによる浸水9件

・　施設の破損（屋根、壁、ガラス）7件

・　設備の破損（換気扇、エアコン、室外機）6件

・　電子機器（パソコン、レセコン、監視カメラ、レントゲン等）の不具合

5件

・　停電による診療への影響4件

・　器械の破損（レジ、洗濯機など）2件

・　床上浸水1件

⑤　会員の関連施設で1か所床上浸水があった。

今回の台風は、雨・風が強かったため、雨漏り、吹込みによる浸水や設備・外構の破損、屋根の破損による雨の吹込み、電子機器の不具合等、何かしら被害があった施設が多かった。

特に、停電に関しては、場所によっては4日間と長いところもあり、自家発電を使用したとの報告や、令和4年9月20日の診療は電子カルテ・レセコンが動かず、支払いは後日にお願いして診療のみを行ったとの報告もあった。

⑥　災害に関して保証が出るのかとの質問に対して、河村英徳理事は、ある程度の損害がある場合には、JCOA経理委員会からお見舞金が支払われると回答した。

イ．大分県

雨漏り2～3件、外壁のタイル破損1件、室外機の破損1件、フェンスの破損1件の被害が報告された。

ウ．熊本県

　　　　大きな被害はなかった。

エ．福岡県

　一時的な停電はあったが、すぐに復旧し、強風や水害の被害報告はなかった。

オ．鹿児島県

　　　　大きな被害はなかった。

（２）九州ブロックでの災害対策委員会の活動報告

現在のところ、九州ブロック内では、災害に関連する研修会を予定している県はない。

福岡県では4地区に分かれているため、情報を円滑に伝達するためのメーリングリストの作成しており、宮崎県でも同様にメーリングリストを整備していることが報告された。

熊本県では、メール及びFAXの両方で連絡を行っているとのことであった。

（３）令和4年度第1回災害医療チーム検討委員会

濱邊卓也副委員長は、委員会の内容について報告した。

（４）令和4年度第1回JCOADiTブロック実務委員会（北海道・東北）

八木知徳委員は、会議の内容について報告された。

（５）令和4年度第2回JCOADiTブロック実務委員会（関東・中部）

新保　純委員は、会議の内容について報告された。

（６）第35回JCOA学術集会（徳島）シンポジウムについて

河村英徳理事は、シンポジウム「JCOA災害医療チーム活動を考える」について報告するとともに、現在実施中のJCOA災害医療チームの災害時活動における災害に対する意識調査アンケートへの協力を要請した。

（７）北海道臨床整形外科医会で作成した冊子について

ア．八木知徳委員は、前半はJCOADiTの紹介となっており、後半は北海道での活動が収載されている冊子が完成したこと及びその内容について報告した。

イ．河村英徳理事は、関連して、令和4年11月5日開催の北海道臨床整形外科医会学術講演会における自身の講演内容について報告した。

（８）第5回災害医療チーム研修会について

　　　河村英徳理事は、次のとおり報告した。

ア．開催日：令和5年2月5日（日）11：00～14：00

イ．場　所：ステーションコンファレンス東京

ウ．開催形式は、対面形式及びウェブ形式のハイブリッド型

・　第一部　JCOADiT検討委員会の活動報告

講演１：災害時JCOADiTに何を求める？　～会員アンケート調査より～

講演２：北海道臨床整形外科医会作成

　JCOADiT検討委員会案内冊子の紹介

　　　　　講演３：災害時の薬剤供給に関するローリングストック

JR大阪鉄道病院の例

・　第二部　災害時における避難所で役立つ外傷対応基礎知識

・　第三部　整形外科医でもできる災害時の緊急対応　～実技編～

　　エ．本研修会のオンデマンド配信することについて、講師許諾確認を行った。

オ．日整会教育研修会受講料は、無料とする。

カ．現地会場での実技訓練も実施し、ウェブ形式で配信する。

（９）災害時の情報に関するアンケート調査結果報告

　　ア．河村英徳理事は、アンケート結果を報告した。

　　イ．濱邊卓也副委員長は、静岡県ではEMIS（広域災害救急医療情報システム）について、病院でしか入力できないため、診療所でも利用できるように静岡県に働きかけていることを報告した。

３．協議事項

（１）九州ブロック実務連絡担当者の相互交流方法について

メーリングリストを使用して相互交流行うため、九州ブロックのメーリングリストを松原三郎副理事長が整備することとした。

（２）九州ブロックの責任者について

福嶋秀一郎災害実務連絡担当者（宮崎県）が責任者として推薦され、了承された。

（３）JCOA災害医療チームの災害時活動における災害に対する意識調査アンケートについて

　　　濱邊卓也副委員長は、アンケートを行った経緯及びアンケートの内容について報告するとともに、アンケート回答への協力を要請した。

４．EMISに関して

（１）米盛公治災害実務連絡担当者（鹿児島県）は、次のとおり要望した。

ア．鹿児島県では5年くらい前からEMISに診療所も入れるようにしている。

イ．前回の災害時に入力できていない診療所に関しては、DMATが代行入力を行

った。

ウ．EMISを利用することは大事なことであるので、診療所でも利用できるよう

にJCOAから各都道府県医師会にお願いしていただきたい。

（２）河村英徳理事は、次のとおり回答した。

愛知県では愛知県医師会を通じてEMISの診療所の利用を要望しているが、医療機関が多いため難しいところがある。

ただし、都道府県によっては可能なところもあるので、医師会を通じて診療所のEMISへの登録をお願いする必要がある。

５．JCOADiTの役割について

米盛公治災害実務連絡担当者（鹿児島県）は、JCOADiTの役割について、次のとおり提案した。

（１）超早期の活動でDMAT・JMATが入る前に地域に何ができるかという自助の部分（DMATと変わらない役割）になるため、非常に高い知識とスキルが必要になってくる。

（２）有効な支援を受けるためには、DMAT・JMATが何を目的に、何を知りたくて、何をしてくれるのかを援助を受ける側が理解する必要があるので、JCOADiTにはDMAT・JMATの活動内容を理解してもらう活動を行うことが重要である。

６．閉会挨拶

　各参加者から挨拶があった。

**１６、令和4年度第2回災害医療チーム検討委員会　11/24・WEB　神藤理事**

日　時：令和4年11月24日（木）20：00～22：00

場　所：ウェブ会議

出席者：理 事 長　新井貞男

副理事長　奥村栄次郎、松原三郎、五味渕聡志

担当理事　河村英徳、久賀養一郎、村井　聰

委 員 長　神藤佳孝

副委員長　濱邊卓也

委　　員　八木知徳、瀬野幸治、荒木邦公、原田英男、溜尾栄之、姫野信吉

アドバイザー　加藤裕之

欠席者：副理事長　長谷川利雄

アドバイザー　田辺秀樹、藤野圭司

理事会審議付帯事項：

　特になし。

委員会決議事項：

１．災害派遣の概要について

（１）第35回JCOA学術集会（徳島）でのシンポジウム「JCOA災害医療チームの活動を考える」の講演内容等からまとめた概要が報告された。

（２）本概要について、今後、対外的に公開される可能性のある内容であるため、十分な推敲を本委員会内で重ねた後、理事会へ提出することとした。

２．JCOA災害医療チーム（JCOADiT）の装備について

派遣されるJCOADiTの装備として、次の物品のうち、必要なものと備蓄を要するものについて調査が行われ、引き続き検討することとした。

（１）移動手段 （レンタカー）

（２）食料、飲料水など

（３）クーラーボックス

（４）寝具、簡易トイレ

（５）衛星携帯などの通信手段

（６）TV、ラジオなどの情報収集手段

（７）活動費用、パソコンと周辺機器、事務用品

（８）ユニフォーム

（９）医療資器材

（10）自家発電器充電器

（11）個人防護具（PPE）

３．JCOADiTの保険について

JCOADiTが地元を出発してから支援活動を終えて地元へ到着するまで間の事故等の補償に対応するため、次の範囲にかかる保険を契約することについて、保険会社及び保険の選定を検討することとなった。

（１）対象者：チーム編成員全員

（２）死亡保険金

（３）入・通院見舞金（事故によるけが・感染症）

（４）装備品の損害補償（高額な備品の場合）

４．JCOADiT派遣の財源について

（１）JCOADiTの派遣、現地での費用、日当等についての財源は、大規模災害支援等引当金にて賄う。

（２）現在は、400万円の財源を確保しているが、大規模広域災害では、各都道府県等で多数のJCOA会員の医療機関支援が想定されるので、今後も引当金を増額する必要がある。

資料を作成して、次回の経理委員会へ提出することとした。

（３）経理委員会からの意見として、400万円の根拠は、熊本地震派遣時のデータを元に試算されたもので、地震の大きさなどは考慮していないとのことであった。

５．第5回JCOA災害医療チーム研修会

次のとおり決定した。

（１）開 催 日：令和5年2月5日（日）

（２）開催場所：ステーションコンファレンス東京

（３）開催形式：ZOOMミーティングを使用したハイブリッド型、本委員会の一部が集合して研修会活動をウェブ配信する。

（４）総合司会：河村英徳理事、神藤佳孝委員長

・　開会挨拶：新井貞男理事長

・　第一部　JCOADiT検討委員会の活動報告

　講演１：災害時JCOADiTに何を求める？　～会員アンケート調査より～

　講演２：北海道臨床整形外科医会作成　JCOADiT検討委員会案内冊子の紹

　　　　　　介

　講演３：災害時の薬剤供給に関するローリングストック　大阪鉄道病院の例

・　第二部：研修講演：災害時における避難所で役立つ外傷対応基礎知識

・　第三部：実技訓練：整形外科医でもできる災害時の緊急対応　～実技編～

・　閉会挨拶：松原三郎副理事長

（５）研修会のオンデマンド配信に必要なコンプライアンスについては、予め演者に書面での承諾を得たうえで、ZOOM録画機能を利用したオンデマンド配信とすることとした。

（６）日整会専門医単位の申請については、外傷2で単位認定済みであり、日整会専門委単位の申請費用は無料とする。

６．第36回JCOA学術集会（千葉）のシンポジウムについて

本委員会企画のシンポジウムのテーマは、第35回JCOA学術集会（徳島）でのシンポジウムを踏襲する内容で検討することが決定した。

委員会報告事項：

１．JCOADiTブロック実務委員会について

　　次の会議について、実施された内容又は今後の開催の予定等が報告された。

（１）第2回JCOADiTブロック実務委員会（関東・中部）

（２）第3回JCOADiTブロック実務委員会（近畿・中四国）

（３）第4回JCOADiTブロック実務委員会（九州）

２．北海道臨床整形外科医会学術講演会について

講演「災害時における避難所等で役立つ外傷対応基礎知識　～整形外科と災害時医療等を考える～」の内容について報告された。

３．JCOA災害医療チームの災害時活動における災害に対する意識調査アンケートについて

アンケート調査の準備状況、調査内容の概要が報告された。

４．地震被害について

令和4年11月9日午後5時40分ごろ、茨城県で最大震度5強を観測する強い地震があり、現在のところ被害報告が無いことが報告された。

５．第34回日本運動器科学会のシンポジウムについて

本シンポジウムの講師選定に関して、「災害時にJRATが担う避難所での運動器の危機管理」の演題名で、浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション部部長・病院教授の山内克哉先生に決定したことが報告された。

**１７、令和4年度第3回社会保険等検討委員会　12/25・東京　神藤理事**

日　時：令和4年12月25日（日）11:00~15:00

場　所：ステーションコンファレンス東京6階「605B・C」

 東京都千代田区丸の内1-7-12

出席者：理事長　新井貞男

社会保険等検討委員会

　　　　　副理事長　松原三郎、五味渕聡志

　　　　　担当理事　金淵隆人、寺門　淳、大瀬戸政司

委員長　　山田　明彦

　　　　　副委員長　葛原　啓、岡田祐司

委　　員　中村　尚、子田純夫、西能　健、柴田正人、神藤佳孝、鬼木泰成、橋口兼久

　　　　　アドバイザー　藤野圭司、

外内保連WG

　　　　　担当理事　金淵隆人、寺門　淳、大瀬戸政司

　　　　　委員長　　平泉　裕

委　　員　村井邦彦、田辺秀樹,長谷川和寿、東　秀隆、紺野　勉

欠席者：　社会保険等検討委員会

　　　　　　委員　丸山晴久

　　　　　　アドバイザー　浦門　操

外内保連WG

 副委員長　丸山晴久

委員　平澤直之

アドバイザー　角南義文、三宅信昌

1.理事長挨拶

　　新井理事長は、今年4月に令和4年度改定があったが、すぐに令和6年度改定の

準備に取り掛からねばならず、また防衛費の増額が叫ばれる中、社会保障費は毎年

度の薬価の切り下げ等大変厳しい現状が続くが、会員のため次期改定では何とかプ

ラスを勝ち取るため努力して欲しいと述べた。。

2.副理事長挨拶

　　松原副理事長は、AI審査が開始されたが、返戻が増えていると述べた。五味渕副

理事長は、外保連試案アンケートがすでに提出され、また皆で分担することにより

より良い要望書が出来ることを期待していると述べた。また橋口兼久委員が長年の

功労によりJCOA学会功労賞を受賞されたことを報告した。

3.担当理事挨拶

　　金淵理事は、次期学会に備えてデータとりをしているので、協力をお願いしたい

と述べた。大瀬戸理事は、外保連要望書の文献検索が大変であると述べた。寺門理

事は、令和4年度改定の検証がなされる前に、令和6年度改定の要望書の作成等業

務が大変であるがよろしくお願いしたいと述べた。

　4.その他

　　藤野アドバイザーは、次期改定はおそらくマイナス改定となる、小児関係の点数

だけは高くなる可能性があるので、その方面を考慮してほしいと述べた。田辺外保

連WG委員は、10年間日医診療報酬検討委員を勤めたが、今回五味渕副理事長に

交代をお願いしたと述べた。

報告事項

1,外保連報告

1. 平泉外保連WG委員長より以下のように報告があった。

①令和4年度第2回日整会社保委員会について

全審会、モルヒネ髄注療法、オゾラリズマブ製剤、ウログラフィン適応症、治療用装具に関する通知、第97回JOA学会でのレジストリー委員会のシンポジウム

②令和4年度第1回処置委員会について

ブラッドパッチの主学会変更、新規処置試案の登録（超音波ガイド下ハイドロリリース、拡散型圧力は疼痛治療術、ロコモ・フレイル指導管理、慢性疼痛リハビリテーション料

③手術委員会第1,2回コーディングWGについて

ロボット支援をナビゲーション＋ロボット手術に（案）

大腿、上腕切断術を下肢、上肢切除術・大腿、上腕部離断に（案）

1. 東外保連WG委員より手術委員会報告が以下のようにあった。

①新規手術試案の検討【烏口突起移行術、肩関節唇形成術、腰椎固定術（ロボット支援）、脊椎側弯症手術（ロボット支援）、体外衝撃波治療（疲労骨折、偽関節）】

　　　②改正手術試案の検討【体外衝撃波治療術（収束型）】

　　　③ガイドラインやレジストリーに基づいて申請されたものは当該術式の有用性を支持するデータ、エビデンスを示す事。

1. 寺門理事より体外衝撃波治療術（収束型）は手術試案として、体外衝撃波治療術（拡散型）は処置試案として登録されたと報告があった。

　⑷村井外保連WG委員より、令和4年度第1,2回麻酔委員会の報告が以下のようにあった。

　　　超音波ガイド下の大腿・膝窩麻酔、超音波ガイド下の腕神経叢麻酔が新規麻酔試案として登録された。

2.内保連報告

　　丸山外保連WG副委員長より、令和4年度第2回社員報告のレジメが示された。

　追加の報告事項はなかった

3.2022年(4月～6月)レセプト調査報告

　金淵理事より、以下のようにレセプト調査報告があった。

　　無床診療所の参加施設は98施設であり過去2番目の少なさであった。1施設当たりのレセプト枚数、延べ人数、診療報酬も昨年に比し増加しており、コロナ禍から回復していると考えられた。有床診療所の参加施設は40施設あり、レセプト枚数、延べ人数、診療報酬額とも4,5月は減少していたが、6月は増加傾向にあった。病院の参加施設は16施設であり、レセプト枚数、延べ人数、診療報酬額とも増加しており回復傾向が顕著であった。自賠労災は無床、有床とも減少傾向にあったが、病院は増加していた。入院に関しては、有床、病院とも軽度微減であったが、大きな変化はなかった。

4.メディアス調査報告（第18報）

　中村委員より、以下のように報告があった。

　　令和3年度の医療費は44.2兆円で、病院24兆円、診療所8.9兆円、歯科3.1

兆円、保険薬局7.75兆円で4.6%の増加であった。診療所全体の医療費は8兆8,720億円、整形外科は9,813億円で、内科の4兆2,541億円についで多かった。1施設あたりの医療費は整形外科では、1億3464万円であり、平成16年度に比し19.8%増であった。整形外科の施設数増加は過去17年間で19.8%であり、この事が1日当たりの医療費が低い整形外科の医療費全体を押し上げている。1施設当たりの医療費で高額であったのは整形外科の1億2,061万円であった。1日当たりの医療費は全体で7,487円、整形外科は4,438円であり、内科の半分以下であった。延べ日数について整形外科は月平均2,366日と突出しているが、これは診療科の特性によるもので、リハビリテーション科を併設している以上当然の結果である。

5.二次性骨折予防継続医療管理料アンケート調査

　　金淵理事より二次性骨折予防継続医療管理料アンケート調査の詳細について報告があった。病院についてのアンケートは、JCOA会員の病院について行う予定になっているが、他の病院も拡大すべき、情報共有の方法を調べるべきとの意見も出された。また労災の場合算定可能か、管理料算定の手上げをしている診療所が少ない、JOAが管理料のひな型の作成をすべき、また院内カンファレンスの方法についても議論があった。結果は令和5年の骨粗鬆症学会にて発表予定である。

6.令和4年度JCOA保険審査員会議の結果及び反省

　　山田委員長より、令和4年度JCOA保険審査員会議の結果説明があった。THAの際の内転筋筋切術の併用については、詳記を求めること、癌性疼痛に対してのジクトルテープの処方については、貼付剤の63枚制限にはかからないことが確認された。

7.令和4・5年度理事長諮問事項に対する中間報告について

　　山田委員長より令和4・5年度理事長諮問事項に対する中間報告案が示され了承された。

8.令和4年度医業経営委員会での外保連、内保連要望事項の決定について

　　寺門理事より、平成6年度診療報酬改定要望事項の改定の役割分担、診療報酬改定提案書までのスケジュールについて、医療技術再評価提案書の作成についての留意事項について解説があった。要旨は以下の通りである。

3月下旬が診療報酬提案書の締め切りである。過去の提案書を診療補修用ネクストクラウドに保存をした。提案書作成のための医療文献検索サイトを導入した。1提案書について5編の論文の提出がひつようだが、過去の論文すべて同じであると却下されるので、1編以上新しい論文を添付すことが求められる。

【外保連提出分】

JCOA学会より提出の変更は以下の通りである。

超音波ガイド下の伝達麻酔、ロコモ・フレイル指導管理は内保連に要望に変更、大関節テーピング、ギプス包帯管理、関節鏡視下靭帯断裂形成術は取り下げ（エビデンス構築中）、創傷処理（手の指）及び皮膚欠損用創傷被覆材の適応期間拡大は通則の変更で申請、

日本運動器学会より提出の変更は以下の通りである。

骨折観血的整復術（透視下）は取り下げ、拡散型圧力波疼痛治療術は処置として申請、体外衝撃波治療術（偽関節、疲労骨折）は整スポが主学会で申請。体外衝撃波疼痛治療術の適応拡大及び超音波骨折治療拡大は運動器学会が申請、

　【内保連提出分】

　JCOA学会よりの提出の変更は以下の通りである。

有床診地域包括ケア病床加算は全国有床診より提出、ロコモ・フレイル指導管理料新設として申請、四肢骨格筋瞭測定は申請せず、治療変更時CCP抗体複数回測定を日リウマチと共同提案、

日本運動器学会より提出の変更は以下の通りである。

　二次性骨折予防継続管理料対象疾患の拡大は申請せず（今後JOA,骨粗鬆症学会と合同会議の立ち上げをする予定）

　　【日医への要望】

　　小児運動器疾患指導管理料の適応疾患の拡大（骨端線離解、粉砕骨折などを含める）

　　【日整会共同提案】

　　拡散型圧力波疼痛治療術、ロコモ・フレイル指導管理料

　　【その他】

　　要望を通すためには、エビデンス、アウトカム評価を出すなど理論武装が必要である。ロコモの文献は増えているので、新たな知見として提出していけばよい、等の意見も出た。小児運動器疾患指導管理料の適応疾患について議論があった。

　　医業経営委員会より１２月末に正式に担当者に依頼が届く。新しいフォーマットは２月初め位に提示させるが、それまでに要望書の作成に着手して欲しい。担当責任者が最終的に外保連、内保連事務局との折衝に当たることとなる。医業経営委員会を毎年開催して総括と反省、練り直しをすべき、また何年か先を見据えた要望項目の決定をすべきとの意見もあった。

検討事項

1. レセプト調査の調査内容の検討について

金淵理事より以下のような問題提起があった。

総括表の添付をお願いしているが、添付している医療機関は57%にとどまっている。またこれを利用した分析も行っていないので、総括表を除いた調査としてはどうだろうか？総括表をなくせば参加施設も増えるのではないか？有床診、病院部会をはじめ各部会でデータを利用してほしい。

中村アドバイザーより、以下のように発言があった。

担当している期間に2回見直しの案が出たが、総括表を省くとメディアス調査と変わらなくなる。何かプラスアルファの解析が出来ないかということで付けてもらっていえる。同じ施設が長年データを出してもらっているのが強みである。

他に以下のような意見もあった。

今のままで良い。いつかデータを使うかもしれない。現在の料金では、使用3項目だけではもったいない。将来的には後期高齢者のデータを出すべきである。

当分は現在の形態のままレセプト調査を行っていくこととなった。

1. 令和6年度診療報酬改定外保連、内保連要望事項作成について

松原副理事長より、文献検索について、コストの面からなるべく文献としてダウンロードしてほしい、またどの程度アクセスやダウンロードしたかの回数を各自報告してほしいと依頼があった。

他に日整会誌フリーペーパーとして使用できるものもあるので利用してほしい。

3.令和4年度JCOA保険審査委員会議について以下のように決定した。

　　令和5年9月9日（土）対面式で行う。前半は座長　丸山外保連WG副委員長、司会　神藤委員、後半は座長　葛原副委員長、司会　岡田副委員長、に依頼する。

 問題募集は、岡田副委員長が行い、6月初旬より開始し、7月半ばを締め切りと

する。7月下旬までに前半は神藤委員、後半は岡田副委員長が設問を作成し、社保委員会で決定し、8月中旬までにアンケート調査を行う。保険審査員会議までに集計を行い、当日は討論を中心として行う。

4.その他

　　神藤委員より、骨粗鬆症治療薬（特にアパラパラチドについて）、メトジェクト特性、ジクトルテープの売り上げ状況について解説があった。

5.次回社会保険等検討委員会は、令和5年3月5日に開催することとした。

　最後に出席者より、各自簡単な挨拶があり会を閉じた。

**１８、ホームページ管理委員会　　　　　　　　　　 宮口理事**

資料20-23

委員会活動報告（ワーキンググループ活動も含む）

1. ホームページWGからホームページ管理委員会として令和４年１２月より新規発足し活動開始
2. ホームページをスマートフォン閲覧にも対応するよう刷新しました
3. リニューアルしたホームページの管理および活用拡大への取り組み
4. ホームページからの研修会申し込み
5. 理事会資料のホームページからの配信
6. みなさまの街の整形外科医　医療検索システムの改善
7. バナー広告への取り組み　６枠（3企業＋3病院で決定）にて4月から開始に向けて準備中　→参考資料１～４
8. 新入会会員の自院紹介コーナーの作成（4月より）
9. OCOA単独研修会における講演記録のオンデマンド視聴に向けて

など

令和4年度第１回ホームページ管理委員会

日 時：令和4年12月23日（金）20：00～21：20

場 所：WEB会議

出席者：副会長　　　　小林正之

常任理事　　　木下裕介、神藤佳孝 委員長　　　　宮口正継

副委員長　　　明石健一

委員　　　　　調子和則、宮崎　浩、邉見俊一、片岡英一郎

アドバイザー　牧元光成

**委員会決議事項：**

**１．HPアクセス数報告**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　510ユーザー/月程度。会員による研修会や管理委員によりアクセスが中心と推測。HP活用を高め会員のアクセスを増やすことから取り組んでいくこととした。

**２．ホームページ管理の問い合わせメール**

ローカルサポート牧元氏から委員長、副委員長および神藤理事に自動転送とし初期対応を行うこととした。内容により各担当理事に転送して回答の依頼をすることとした。現状は研修会の参加や支払いに関する締め切り直前・直後の問い合わせが多いとのことであった。

**３．バナー広告について**

（１）ローカルサポート、株式会社ｋタスケル、アーキテクツ・スタジオ・ジャパンの3社は、常任理事会で承諾を得て契約書の準備も整い進行中である。

（２）初年度の契約・掲載期間は令和5年4月～令和6年3月とする。本年度は現在準備している　医師・会員のみなさまのファーストページの下段6枠で開始する。残り3枠に対し、現在阪和記念病院と大阪整形外科病院と交渉中であるがほぼ確定的であり常任理事会の稟議を諮る。現状広告機関の関連医局が偏在しても問題としない方向で残りの広告主を確保することとした。

（３）バナー広告の需要状況によっては、来年度以降は広告枠の増設を検討し、今後さらに一般のみなさまへのページに一般向けの広告も募集していくことを目指すこととした。

（４）バナー広告タイトルは、病院参加のため表現として不適と判断し、協賛企業の表記を削除した。

（５）ホームページ上に、バナー広告募集のお知らせを掲示することを検討することとした。

**４．新入会員の自院ホームページ紹介**

　　一般のみなさまへのページに自院ホームページへリンクできるよう紹介コーナーを作成。掲載期間は半年もしくは１年で検討。令和5年4月から掲載を目指し調整していくこととした。

**５．リクルート委員会**

リクルート研修の案内をお知らせに定期的に掲示を行い、申し込みも学術研修会と同様にＨＰからできるように目指し、リクルート関係のコンテンツも入退会異動のコーナーに作成していくこととした。

**６．その他**

（１）災害対策委員など研修会関連など行事やお知らせは多い。終了したイベントの削除やリンク先のミスなど、お知らせのコーナーの管理は、各担当者の協力が必要で、協力要請を行っていくこととした。

（２）医療機関検索システムの掲載件数が少ないため、再度掲載申し込みのアナウンスをすることとなった。

**委員会報告事項：**

**１．理事会資料HPからの配信の試み**

大きな問題はなく開催できたが、会議中にFree WiFiで読み込むとアクセスに時間を要するため、本体資料だけでなく添付資料も事前にダウンロードを推奨することとした。配布資料のフォントの大きさを調整するとページ番号がずれて資料を探しにくくなるなどの注意点の報告があった。

令和5年度第2回ホームページ管理委員会

日 時：令和5年1月24日（火）20：00～21：30

場　所：WEB会議

出席者：副会長　　　　小林正之

常任理事　　　木下裕介、神藤佳孝 委員長　　　　宮口正継

副委員長　　　明石健一

委員　　　　　調子和則、宮崎　浩、邉見俊一、片岡英一郎

アドバイザー 牧元光成

**委員会決議事項：**

1. **HPアクセス数報告**

ここ１か月のアクセス数は、846回と前回の510回より増加している。研修会申し込みで、アクセス数が増加したと推測される。今後、広報誌のペーパーレス化やホームページ上での医療機関検索が増えれば、アクセス数が増加すると推測される。

**２．お知らせ欄に関して**

1. お知らせ欄に、申し込み受付け中の研修会情報を掲載することとした。
2. お知らせ欄の機能充実により、研修会案内へのアクセス数が増加すると、バナー広告掲載予定の「医師・会員のみなさま」のファーストページへのアクセス数の減少が危惧される。その対策として、バナー広告を医師・会員のみなさまのページ以外に研修会案内のページにも掲載し、画面右上に縦に並べることとした。

**３．医療機関検索について**

「医療機関検索」への登録は、現在300件程度である。登録医療機関を増やすため、未登録医療機関を抽出し、各大学で手分けして同門者が個別にアナウンスしていくこととした。

**４．ホームページ上での新入会者の自院紹介について**

（１）自院紹介サイトは、4月スタートの予定とした。サイトオープンから、1年以内に入会した医療機関を対象とすることとした。

（２）新入会者への掲載依頼は、リクルート委員会が行うこととした。

（３）掲載期間は１年間とし、「一般のみなさま」のページに掲載することとした。新規開業のクリニックのご案内として、開業地区と医療機関名を載せ、希望のホームページとリンク出来るようにすることとした。

**５．OCOA単独開催研修会における講演記録のオンデマンド配信に関して**

（１）配信期間は、研修会終了後１か月とし、期間中は何度でも視聴可能とする。

（２）OCOA会員は無料、非会員は1000円を徴収する。カード決済が可能となるまでは、銀行振り込みとする。

1. 視聴方法は、OCOA会員は「会員の部屋」経由で、オンデマンド配信専用サイトにアクセスして視聴する。非会員は、入金確認後にvimeoのURLとパスワードを提供し視聴できるようにする。（下記のパスワード：ocoa）



1. 講演記録は、ホームページサーバーに一定期間アーカイブ保存する。

**６，OCOA研修会視聴のための緊急アクセスサイトの設置について**

ウェビナーの視聴URLのお知らせメールが届かず、非会員の視聴者が研修会を視聴できず、返金する事案が発生した。問題解決のため、研修会開催前の概ね午後３時から、終了の午後6時まで、ホームページの研修会のページに、緊急的にID・PWのみでウェビナーに参加登録できるサイトをつくることとした。

**委員会報告事項：**

**バナー広告の進捗状況**

現在、ホームページへの広告申し込みのある病院は、阪和記念病院、大阪整形外科病院、なにわ生野病院である。ローカルサポート掲載分は、今後在宅医療事務スマイルに変更の可能性がある。株式会社ｋタスケル、アーキテクツ・スタジオ・ジャパンと4月掲載開始に向け契約を進めていくこととした。

令和5年度第3回ホームページ管理委員会

日 時：令和5年2月17日（火）20：00～21：40

場　所：WEB会議

出席者：常任理事　　　木下裕介、神藤佳孝 委員長　　　　宮口正継

副委員長　　　明石健一

委員　　　　　調子和則、宮崎　浩、邉見俊一、片岡英一郎

アドバイザー 牧元光成

**委員会決議事項：**

1. **ホームページ医療機関検索への登録への再アナウンス**
2. 医師・会員のみなさまのお知らせ欄に、医療機関検索ツールへの登録の呼びかけの案内を再度掲載することとした。
3. 研修会案内の郵送物内にホームページ掲載依頼書を同封していただくよう依頼することとした。
4. **新入会の先生の自院紹介について**
5. 4月開始予定の自院紹介サイトへの掲載に関して対象の先生方からの承諾は得られているが、ホームページ依頼書未提出の場合は提出をお願いすることとした。
6. 今後検索ツールへの登録率を向上させるためにも、入会時の書類にホームページ掲載依頼書を追加していただくことをリクルート委員から提議していただけるよう依頼することとした。
7. **バナー広告に関して**

（１）初年度6枠は決定。ただし、ローカルサポート社から　一般社団法人　在宅医療事務協会　に変更とした。

（２）契約書：広告掲載期間　令和5年4月1日から令和6年3月31日　とし、請求月は１月→3月　に変更のうえ各社契約を交わすこととした。

（３）掲載場所は、初年度のみ医師・会員のみなさまのファーストページ下段と研修会申し込みページの右上の2か所とする。ただし、次年度はどちらかひとつを選択していただき、広告枠を12枠へ増設する予定とした。

1. **重要なホームページアップデートのアナウンス**

お知らせ欄の更新や重要なアップデートがあった場合、club ocoaのメーリングリストを通じてその旨の配信を行うこととした（委員長が担当）。

1. **対面研修会におけるホームページからの申し込み**
2. 対面研修会のみの開催に戻った場合も案内状にQRコードを掲載しホームページからの申し込みを継続することを提案することとした。
3. 出席者人数の把握目的で郵送されていた返信はがきを、ホームページにて出欠回答にしていくことができるようなシステムを提案していくこととした。
4. **療法士会勉強会など療法士のお知らせ情報について**

療法士会勉強会などの情報もファーストページのお知らせに掲載し、療法士会ホームページにリンクさせることを可とした。

1. **医師・会員のみなさま　のお知らせ欄について**

現状の「お知らせ」のメニューボックスを削除し、ファーストページと同様にお知らせ欄を上段に作成することとした。古い情報が残らないように掲載期限超えには委員で注意をしていくこととした。

1. **企業コンプライアンスへの対策**

ホームページ内において、医療従事者向けへのサイトであることの担保をより高めるために、あなたは医療従事者ですか「はい」「いいえ」を設けることを改めて検討していくこととした。

**委員会報告事項：**

**1.HPアクセス数報告**

１か月のアクセス数は、510→846→1109ユーザーと増加傾向。2月は研修会が2回開催されることもあり増加したと推測される。

**１９、委員会報告　　 各担当理事**

１．総務委員会

・（議事録）　 　　　　　　 中野理事

総務（議事録）の委員会は開催しておりません。

　１、理事会（令和4年4月16日、6月4日、9月3日、12月3日、令和4年3月4日、計5回）の資料編集作成、令和4年12月理事会からペーパーレス理事会

２、第47回総会レジメ作成

令和4年12月28日レジメ委員会、順次修正し令和5年3月初め校了予定

３、議事録作成（作成後は次回理事会で承認、ホームページ会員の部屋に掲載）

　４、令和3年度の議事録、第46回総会・4月議事録、を会報第47号に掲載

・福利厚生委員会　　　　　 宮﨑理事

　報告事項なし

２．学術委員会　　　　　　　 神藤理事

　　報告事項なし

３．医療保険対策委員会

⑴社会保険　 小林副会長

2022年9月10日　令和4年度JCOA保険審査委員会議　（東京）
2022年9月11日　web　日整会「令和4年度 全国整形外科保険審査委員会議」
以上の会議に参加

⑵自賠・労災　　　　　 調子理事

⑶柔道整復審査　　　　　 岸本成理事

　柔道整復審査委員(社保・国保)：いずれも　OCOA会員　は下記全12名です
今年も残念ながらコロナの影響等にて
令和4年12月4日のJCOAシンポジウムに岸本と山口が参加した他は
委員会を開催することはできませんでした

社保 柔整審査委員 5名
藤本啓治 白木隆士 荻野晃 榎本誠 安田忠勲

国保・柔整審査委員 7名
学術3名　      岸本成人 山口眞一 木下祐介
保険者代表4名　吉村弘治 西澤徹 西浦弘行 小坂理也

４．定款委員会　　　　　　　 木下副会長

　　開催なし

５．広報委員会

⑴会報編集　　　　　　　 調子理事

・会報誌49号の編集、発行。

・会報誌のPDF化について検討した。

⑵インターネット　　　　 岸本成理事

⑶NEXLINK　　　　　　　 宮崎理事

FAX網の整備をしました。

６．介護保険・運動器リハビリテーション

⑴セラピストLC　　　 山本善理事

⑵介護保険　　　　　　　 吉村理事

報告事項無し

７．「骨と関節の日」委員会　 大成理事

８．JCOA対策委員会

⑴病院　　　　　　 古瀬理事

令和4年度第1回病院WG、JCOA病院部会役員合同会議
　　　日時：2022年6月24日（金）ZOOMミーティング

　　　令和4年度JCOA病院部会役員会
　　　日時：2月18日（土）ハイブリッド

　　　令和4年度病院部会全体会議
　　　日時：2月19日（日）ハイブリッド

　　　令和4年度JCOA研修会（病院部会主催）
　　　日時：2月19日（日）ハイブリッド

⑶無床診　　　　　　　　 梁　理事

特に活動はありませんでした。

⑷近畿ブロック　　　　　 吉村理事

令和4年４月９日WEB開催
　　　令和４年11月5日対面開催　JCOA関西親睦会（リッツカールトン大阪）

９．大阪マラソン委員会　　 荻野理事

　　開催なし

１０．整医協連絡委員会　　　　 藤本会長

　　　報告事項なしです

１１．療法士担当委員会　　　　 中川理事

１２．経理委員会

　　・会計　　　　　　　　　　 中谷副会長

　　・理事会・会場　　　　　　 吉村理事

　　　令和4年3月5日　理事会対面開催
　　　令和4年6月4日　理事会対面開催、情報交換会
　　　令和4年9月3日　理事会対面開催、情報交換会
　　　令和4年12月3日　理事会対面開催、情報交換会

　　・会員管理　　　　　　　 白木副会長

　　　開催していません

１３．災害対策検討委員会　　　 神藤理事

　　　報告事項なし

１４．地域情報委員会　　　　　 調子理事

　　　・フレイル健診におけるフレイルロコモ対策の会員への啓発を行った。

１５．リクルート委員会　　　　 邉見理事

　　　リクルート委員会では、労災・府医の新規開業リストや、大学からの新規開業者情報から各大学別の非会員開業医を抽出しリストを作成し、入会勧誘を進めている。令和4年4月以降、新入会者4名が加わったが、退会者7名のため、OCOA正会員488名に留まっている。

今後も整形外科診療所の高齢化と、コロナ禍での新規開業医数の減少が予想される。現在までの勧誘活動だけでなく、好評であった新規開業を予定している病院勤務医及び新規開業医に対し、事務的及びコンサル的内容の研修会を来年度も開催し、入会者増に繋げたい。

※　OCOAホームページ管理委員会　 宮口理事

※　特別委員会（日韓臨床整形外科研究会準備委員会）　　　　　　長谷川理事

　　　2023年6月3日（土）
第8回第 8 回日韓臨床整形外科合同研究会
ザ・リッツカールトン大阪にて
開催予定。
詳細はＪＣＯＡ国際委員会と折衝中です。

**２０、研修会実施報告　　　　　　　　　　　　　　　　　　堀口副会長**

**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**

**令和4年度大阪臨床整形外科医会スポーツ研修会（令和5年1月21日　WEB開催　配信場所：****しんとう整形外科・リウマチクリニック）OCOA単独開始　16:00～**

**参加者数　143名（会員　76名　非会員　67名）**

講演Ⅰ

演題名：「膝スポーツ傷害　臨床の最前線　-基本から最新の知見まで-」座長：岸本　成人　先生

演者：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　スポーツ医学担当部長

北　圭介（きた　けいすけ） 先生

日整会　N2（外傷性疾患（スポーツ障害を含む））、12（膝・足関節・足疾患）、S（スポーツ医）

日医　9（医療情報）、0（最新のトピックス・その他）

講演Ⅱ

演題名：「肩関節のスポーツ障害・外傷」座長：堀口　泰輔　先生

演者：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　整形外科医長

西本　竜史（にしもと　りゅうじ） 先生

日整会　N9（肩甲帯・肩・肘関節疾患）、13（リハビリテーション（理学療法、義肢装具を含む）、

S（スポーツ医）

日医　15（臨床問題の解決のプロセス）、61（関節痛）

講演Ⅲ

演題名：「手・肘領域のスポーツ障害」座長：邉見　俊一　先生

演者：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　整形外科　外傷外科担当部長　轉法輪　光（てんぽうりん　こう） 先生

日整会　N9（肩甲帯・肩・肘関節疾患）、10（手関節・手疾患（外傷を含む））、S（スポーツ医）

日医　57（外傷）、73（慢性疾患・複合疾患の管理）

日本医師会認定健康スポーツ医3単位（講演Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　各々1単位）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　各々1単位）

日本リハビリテーション医学会（講演Ⅱ、Ⅲ　各々専門医1単位 認定臨床医10単位）

日本手外科学会（講演Ⅲ　Ⅰ単位）

**第357回大阪臨床整形外科医会研修会（令和5年2月18日　ハイブリッド開催　現地会場：あべのメディックス　75名）共催　科研製薬　16:00～**

**参加者数　名（会員　名　非会員　名、会場　名（会員名、非会員名　事前申込無し　会員名　非会員名）　WEB 名（会員名　非会員名）**

講演Ⅰ

演題名：「肩関節疾患の診断と治療」　座長：河合　大五郎　先生

演者：大阪大学大学院医学系研究科　器官制御外科学（整形外科）佐原　亘（さはら　わたる）先生

日整会　N9（肩甲帯・肩・肘関節疾患）、13（リハビリテーション（理学療法、義肢装具を含む）、

Re（運動器リハビリ医）

日医　61（関節痛）

講演Ⅱ

演題名：「Hip-spine syndrome再考　人工股関節置換術後腰痛と脊柱骨盤矢状面アライメント」

座長：小坂　理也　先生

演者：大阪医科薬科大学　整形外科学教室　准講師　岡本　純典（おかもと　よしのり）先生

日整会　N7（脊椎・脊髄疾患）、11（骨盤・股関節疾患）、R（リウマチ医）

日医　60（腰痛）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）

日本リハビリテーション医学会（講演Ⅰ　専門医1単位 認定臨床医10単位）

**大阪臨床整形外科医会　特別研修会（令和5年2月25日　対面開催　現地会場：グランフロント大阪北館タワーB　156名）共催　あゆみ製薬　16:00～　司会　越宗　勝　先生**

講演Ⅰ

演題名：「関節リウマチ治療の現状・課題・そして展望」　座長：竹口　輝彦　先生

演者：近畿大学病院　血液・膠原病内科　准教授　野﨑　祐史（のざき　ゆうじ）先生

日整会　N1（整形外科基礎科学）、6（リウマチ性疾患・感染症）、R（リウマチ医）

日医　9（医療情報）

講演Ⅱ

演題名：「重粒子線治療　Update」　座長：河崎　美也子　先生

演者：公益財団法人　大阪国際がん治療財団　大阪重粒子線センター放射線科　主任部長

鈴木　修（すずき　おさむ）　先生

日整会　N1（整形外科基礎科学）、5（骨・軟部腫瘍）

日医　84（最新のトピックス・その他）

日本リウマチ学会（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）

日本リウマチ財団（講演Ⅰ、Ⅱ）（各々1単位）

**２１、その他　 　　　 　　　 　藤本会長**